

埼玉県北埼玉郡

三番遺跡第1次調査

五番遺跡第1・2次調査

種垂城跡第6次調査

2009

騎西町教育委員会

埼玉県北埼玉郡

さん ばん い せき  
三番遺跡第1次調査

ご ばん い せき  
五番遺跡第1・2次調査

たな だれ じょう あと  
種垂城跡第6次調査

2009

騎西町教育委員会





三番遺跡1次 4号溝完掘



三番遺跡1次 陶磁器

同 4号土壇 出土甕 (No.19)



口絵 2



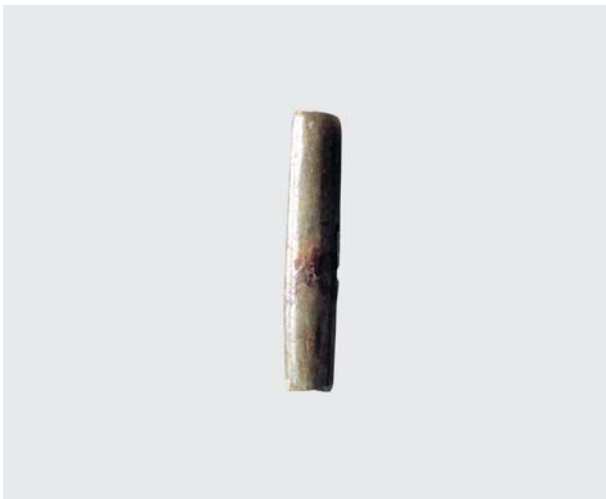
五番遺跡 1次 灰色粘土ブロック



五番遺跡 1次 同焼土



五番遺跡 1次 管玉出土



五番 1次 管玉 (No.22)



五番遺跡採集 絵画土器 (No.73)



五番 1次 石鏃 (No.62)



五番遺跡 2次 土師器集中



五番遺跡 2次 出土土器

口絵 4



五番遺跡 2次 出土須恵器 弥生土器 陶磁器

種垂城跡 6次 磨製石鏃 (No.17)



種垂城跡 6次 溝完掘

## 序

騎西町は埼玉県北東部の豊かな田園地帯に位置し、町の中央に延喜式内社玉敷神社が鎮座する、歴史の古い町であります。

近年、当町は周辺の市町村とともに都市化が進み、町の景観が著しく変貌しております。種足地区でも住宅の建設が顕著となり事前に発掘調査を実施しているところであります。

今回の調査報告は、平成元～2年に実施された種足地区に所在する三番遺跡第1次、五番遺跡第1・2次、種垂城跡第6次発掘調査の記録であります。調査の結果、古墳時代の遺物を主として中世～近世の遺構遺物が多数発見されました。これらは小沼耕地遺跡の前方後円墳築造や種垂城支配の背景を理解する上での基礎資料としてその価値は高いものといえるでしょう。本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました開発者諸氏をはじめ関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成22年2月

騎西町教育委員会

教育長 岡田 道夫



# 例 言

- 1 本書は埼玉県北埼玉郡騎西町内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は住宅建設に先立つもので、平成元・2年に実施した。  
調査及び報告書の刊行は国・県の補助金を受けた。
- 3 発掘調査組織  
調査主体者 騎西町教育委員会  
担当者 嶋村英之  
調査協力員 各調査に記載
- 4 本書の刊行に際して次のように担当した。
  - (1) 古墳時代執筆 嶋村薫  
陶磁器基礎データ・作表 島村範久  
上記の他 嶋村英之
  - (2) 出土品の整理・図版の作成は、古墳時代は執筆者が他は担当者が指導し遺物整理員が行った。  
遺物整理員  
新井博子 上野由里子 方波見良子 坂庭千絵  
遠井恭子 長谷川恵 松村順子
  - (3) 現場及び遺物の写真撮影は嶋村英之が行った。
- 5 本書の編集は嶋村英之が行った。
- 6 資料は騎西町教育委員会が保管している。
- 7 三番遺跡は現在小沼耕地遺跡に編入されている。
- 8 挿図について  
○縮尺は以下の通りである。  
遺構 堀・溝・井戸・土壇1/60  
遺物出土1/40 1/20  
遺物  
縄文時代 石器 1/1 1/3  
弥生時代 土器片2/3 1/2 石製品1/1

- 古墳時代 土器1/4 埴輪片1/3 土・石製品  
1/2  
中・近世 銅製品1/2 板碑1/4 ほか1/3
- 遺構断面図の基準標高は各々に記載した。
- 9 本文および表について  
○遺物観察表の胎土は肉眼観察で、包含量の多い順に記載した。  
○遺物の色調は新版標準土色台帖を参照した。  
○共通：( )は残存値である。  
○遺構一覧：☆はセクション図を計測した数値・土層説明略称  
T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、  
BB=黒褐色、B=黒色、FE=酸化鉄/R=粒子・  
B=ブロック  
※例 LB=ロームブロック
  - 遺物一覧  
口径/底径/高さは、遺物により長さ/幅/厚さ(高さ)と読み替える  
※は不確実な推定復元値
- 10 発掘調査・整理報告に際して下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。(敬称略)  
安藤弘道 植田文雄 柿沼幹夫 角張淳一  
酒井清治 笹森紀己子 鈴木正博 富元久美子  
永野香 橋本裕行 比田井克仁 藤澤良祐  
森岡秀人

# 目次

序／例言／目次

## 第Ⅰ章 遺跡の立地・環境

- 第1節 遺跡の位置……………1
- 第2節 遺跡の地理的環境……………1
- 第3節 遺跡の歴史的環境……………2

## 第Ⅱ章 三番遺跡第1次調査

- 第1節 調査の概要……………7
- 第2節 遺構と遺物……………8

## 第Ⅲ章 五番遺跡第1次調査

- 第1節 調査の概要……………15
- 第2節 遺構と遺物……………16

## 第Ⅳ章 五番遺跡第2次調査

- 第1節 調査の概要……………27
- 第2節 遺構と遺物……………27

## 第Ⅴ章 種垂城跡第6次調査

- 第1節 調査の概要……………34
- 第2節 遺構と遺物……………35

## 第Ⅵ章 まとめ

- 第1節 三番遺跡第1次調査……………40
- 第2節 五番遺跡第1・2次調査……………40
- 第3節 種垂城跡第6次調査……………40
- 引用参考文献……………41
- 図版／報告書抄録

# 挿図目次

- 第1図 遺跡の位置……………1
- 第2図 周辺の微地形分類と騎西町の縄文・古墳時代遺跡……………2
- 第3図 周辺の主な縄文・古墳時代遺跡……………3
- 第4図 周辺の微地形分類と城館跡……………6
- 第5図 各調査区の位置……………6
- 第6図 三番1次調査区の周辺……………7
- 第7図 三番1次遺構位置及び南壁土層堆積状況 ……9
- 第8図 三番1次堀及び溝……………10
- 第9図 三番1次4号溝及び土壇……………11
- 第10図 三番1次出土遺物1……………12
- 第11図 三番1次出土遺物2……………13
- 第12図 三番1次出土遺物3……………14
- 第13図 五番1・2次調査区の周辺……………15
- 第14図 五番1次遺構位置及び北壁土層堆積状況 ……17
- 第15図 五番1次土壇1……………18
- 第16図 五番1次土壇2……………19
- 第17図 五番1次灰色粘土ブロック・遺物出土……………20
- 第18図 五番1次出土遺物1……………21
- 第19図 五番1次出土遺物2……………22
- 第20図 五番1次出土遺物3……………23
- 第21図 五番2次遺構位置及び土師器集中……………28
- 第22図 五番2次出土遺物1……………29
- 第23図 五番2次出土遺物2……………30
- 第24図 五番2次出土遺物3……………31
- 第25図 種垂城跡6次調査区の周辺……………34
- 第26図 種垂城跡6次遺構（上層）堀……………36
- 第27図 種垂城跡6次遺構（下層）溝……………37
- 第28図 種垂城跡6次出土遺物……………38

## 表目次

第1表	周辺の主な縄文・古墳時代遺跡……………	3	第7表	五番1次遺物一覧表3……………	26
第2表	三番1次遺構一覧表……………	10	第8表	五番2次遺物一覧表1……………	32
第3表	三番1次遺物一覧表……………	14	第9表	五番2次遺物一覧表2……………	33
第4表	五番1次遺構一覧表……………	20	第10表	種垂城跡6次遺構一覧表……………	37
第5表	五番1次遺物一覧表1……………	24	第11表	種垂城跡6次遺物一覧表……………	39
第6表	五番1次遺物一覧表2……………	25			

## 図版目次

図版1	三番1次1	遺物出土	図版13	五番1次7	出土遺物
図版2	三番1次2	遺構	図版14	五番1次8	出土遺物
図版3	三番1次3	遺構	図版15	五番2次1	遺物出土
図版4	三番1次4	遺物出土	図版16	五番2次2	調査区
図版5	三番1次5	遺構	図版17	五番2次3	遺物出土
図版6	三番1次6	出土遺物	図版18	五番2次4	遺物出土・出土遺物
図版7	五番1次1	遺物出土	図版19	五番2次5	出土遺物
図版8	五番1次2	遺物出土	図版20	五番2次6	出土遺物
図版9	五番1次3	遺構	図版21	種垂6次1	遺構
図版10	五番1次4	調査区	図版22	種垂6次2	遺物出土
図版11	五番1次5	調査区	図版23	種垂6次3	遺構
図版12	五番1次6	調査区	図版24	種垂6次4	出土遺物

# 第1章 遺跡の立地・環境

## 第1節 遺跡の位置 (第1図及び第5図)

騎西町は埼玉県北東部に位置し、今回報告する三番遺跡、五番遺跡、種垂城跡は、いずれも騎西町南部の種足地区に所在する。

### 三番遺跡 大字上種足字三番

県立騎西養護学校の南に位置し、遺跡の中央に種垂城址公園がある。東西650m、南北450mの広がりを持ち標高13.5mである。

※現在は小沼耕地遺跡に編入されている。

### 五番遺跡 大字中種足字五番

種足小学校より南東600mの所にあり、泉蔵院の南側に隣接している。東西600m、南北200mの広がりを持ち標高は13mである。

### 種垂城跡 大字上種足字三番

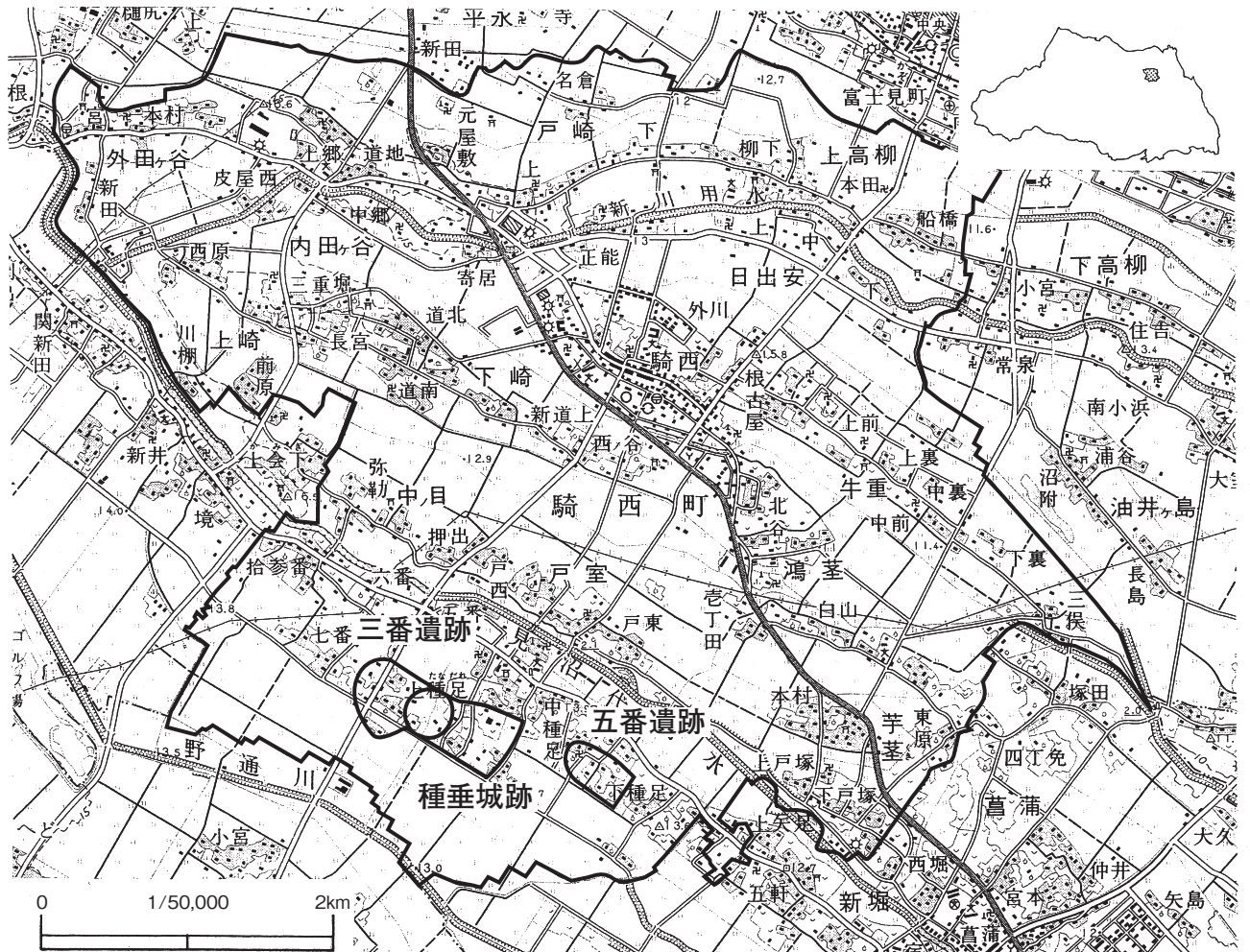
種垂城址公園から東へ約750m、南北400mの広がりを持ち、標高は13.6mである。

## 第2節 遺跡の地理的環境

(第2図―周辺の微地形分類と騎西町の縄文・古墳時代遺跡)

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在町内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水兩岸に位置しいずれもローム台地上に展開



第1図 遺跡の位置

している。三番・五番遺跡及び種垂城跡も下層に埋没ロームを擁する自然堤防上に立地する。北側および南側は徐々に高さを減じ現在は水田であるが中世以降後背湿地が形成されていたものと思われる。

### 第3節 遺跡の歴史的環境

(第2図及び第3図周辺の主な原始古代遺跡)

※ ( ) 内の遺跡名は騎西町史考古資料編1に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直したものである。

#### 1 旧石器時代

約2万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ(前)・(中宿)遺跡で該期の遺物が出土している。(前)遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が2カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約1万5千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、同系の(道上)遺跡では荒屋型彫刻器が出土している。

近隣の加須低地では羽生市の大道遺跡などで石器集中やナイフ形石器が、菖蒲町の九宮2遺跡ではナ

イフ形石器や剥片が出土している。大宮台地では鴻巣市新屋敷遺跡(46)でまとまった石器群が確認されている。

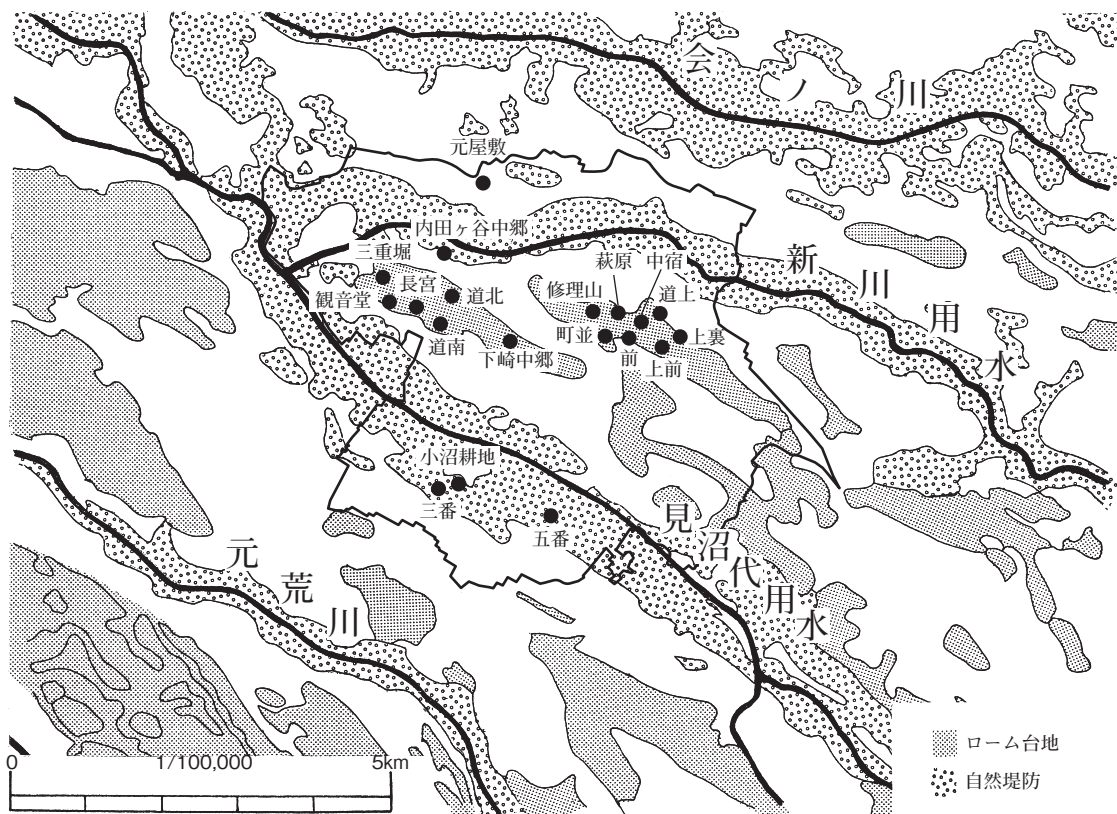
#### 2 縄文時代

周辺では早期撚糸文系・条痕文系土器や前期浮島系土器が加須市の花崎遺跡(29)で出土している。羽生市の中岩瀬遺跡(16)では前期の土器片が出土している。鴻巣の新屋敷遺跡(46)では早期から前期の土器が出土している。

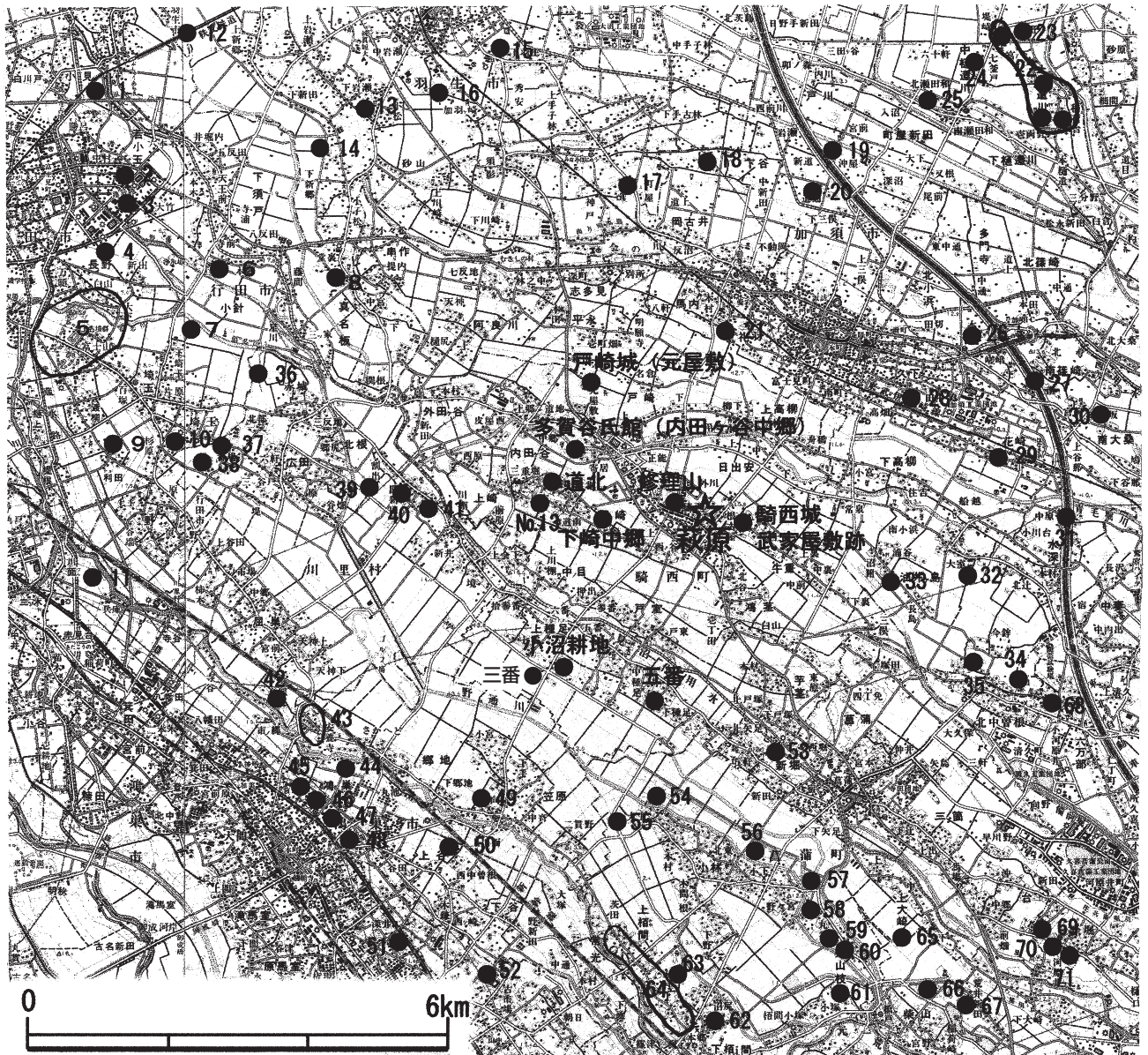
中期は今回ドットを落としたほとんどの縄文遺跡で確認されている。

後期の集落跡が鴻巣市の中山谷遺跡(44)で、後・晩期集落跡が鴻巣市の赤城遺跡(36)・菖蒲町地獄田遺跡(55)で確認されている。羽生市の町屋本村遺(17)で後晩期の土器とともに独鈷石や石剣が出土している。行田市では後期の土器片が船原・内郷遺跡(9)や稲荷通遺跡(10)で確認されている。

町内では草創期に(中宿)遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理



第2図 周辺の微地形分類と騎西町の縄文・古墳時代遺跡



第3図 周辺の主な縄文・古墳時代遺跡

No	市町名	遺跡名	No	市町名	遺跡名	No	市町名	遺跡名	No	市町名	遺跡名
1	行田市	白鳥田遺跡	19	加須市	鶴ヶ塚古墳	37	鴻巣市	光安寺遺跡	55	菖蒲町	地獄田遺跡
2	行田市	地藏塚古墳	20	加須市	下谷古墳	38	鴻巣市	川里No.3遺跡	56	菖蒲町	東浦古墳
3	行田市	八幡山古墳	21	加須市	礼羽	39	鴻巣市	広島遺跡	57	菖蒲町	小林八束2
4	行田市	鶴巻遺跡	22	加須市	樋遣川古墳群	40	鴻巣市	川里No.5遺跡	58	菖蒲町	No.5遺跡
5	行田市	さきたま古墳群	23	加須市	穴塚遺跡	41	鴻巣市	川里No.7遺跡	59	菖蒲町	神ノ木遺跡
6	行田市	小針北遺跡	24	加須市	七釜戸	42	鴻巣市	舟塚古墳	60	菖蒲町	神ノ木2
7	行田市	旧盛徳寺周辺遺跡	25	加須市	下樋遣川	43	鴻巣市	安養寺古墳群	61	菖蒲町	No.8遺跡
8	行田市	真名板高山古墳	26	加須市	大桑本田遺跡	44	鴻巣市	中三谷遺跡	62	菖蒲町	菖蒲町No.22遺跡
9	行田市	船原・内郷通遺跡	27	加須市	南篠崎南遺跡	45	鴻巣市	新屋敷北遺跡	63	菖蒲町	神明神社東遺跡
10	行田市	稲荷通遺跡	28	加須市	久下遺跡	46	鴻巣市	新屋敷遺跡	64	菖蒲町	栢山古墳群
11	行田市	築道下遺跡	29	加須市	花崎遺跡	47	鴻巣市	生出塚遺跡	65	白岡	栗岡遺跡
12	羽生市	六反坪遺跡	30	加須市	宮前遺跡	48	鴻巣市	天神遺跡	66	白岡	上荒井ヶ崎西遺跡
13	羽生市	小松古墳群1号墳	31	加須市	水深遺跡	49	鴻巣市	笠原古墳群	67	白岡	上荒井ヶ崎遺跡
14	羽生市	下新郷1号墳	32	加須市	大室遺跡	50	鴻巣市	戸崎遺跡	68	久喜	本村遺跡
15	羽生市	岸町遺跡	33	加須市	油井ヶ島遺跡	51	北本市	雑木林遺跡	69	久喜	医王院遺跡
16	羽生市	中岩瀬遺跡	34	加須市	戸崎遺跡	52	北本市	上手遺跡	70	久喜	江川東遺跡
17	羽生市	町屋本村遺跡	35	加須市	東山遺跡	53	菖蒲町	物見塚古墳	71	久喜	部井遺跡
18	加須市	道上遺跡	36	鴻巣市	赤城遺跡	54	菖蒲町	No.34遺跡			

第1表 周辺の主な縄文・古墳時代遺跡

山・小沼耕地・（前）・（道上）遺跡で擦糸文系土器、（前）遺跡では集石遺構が、（道上）遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で土器が出土しており、特に修理山・（中宿）遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・（前）・（道上）で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な十三菩提式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に（道上）・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曾利E式期その後半に（中宿）遺跡で柄鏡形住居・（道上）遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壙などが見つかった。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷（前）・（中宿）・（道上）遺跡で加曾利B～後期安行式が出土している。晩期では安行3a～3d式が修理山・町並・（道上）・（前）・（中宿）遺跡で出土している。

### 3 弥生時代

近隣では大規模な遺跡はなく加須市下原遺跡、鴻巣市生出塚遺跡（47）・赤台遺跡・登戸新田遺跡、菖蒲町No.1遺跡・神明神社東遺跡（62）で弥生土器が確認されている。

町内でも少なく中期では三番遺跡（種垂城跡・今回報告）で磨製石鏃が、（道上）遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

### 4 古墳時代

古墳としては行田市のさきたま古墳群（5）をはじめ刻書壁画を有する地藏塚古墳（2）や八幡山古墳（3）・真名板高山古墳（8）、埋没した石室で名高い羽生市の小松古墳群1号墳（13）・出土した銅製鏡が国立博物館に収められている加須市の樋遣川古墳（22）、鴻巣市では生出塚（47）・新屋敷遺

跡（46）で大規模な古墳群の跡が調査されている。菖蒲町には栢山古墳群（64）の天王塚古墳があり全長100m前後の前方後円墳である。

集落としては、行田市の築道下遺跡（11）・旧盛徳寺周辺遺跡（7）・北大竹遺跡、鴻巣市では新屋敷遺跡（46）・生出塚遺跡（47）・中三谷遺跡（44）で主に古墳後期の竪穴式住居跡が多数確認されている。

町内では、古墳跡は小沼耕地遺跡※で6～7世紀の前方後円墳1基・円墳5基が、（内田ヶ谷中郷）遺跡で勾玉や埴輪片、（前）遺跡の埴輪片や隣接する（中宿）遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材（町内の玉敷神社所在）を考えあわせるとこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・（中宿）遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・（道上）遺跡・（中宿）遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は町内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

※町史の三番遺跡を含む

### 5 奈良・平安時代

周辺に大規模な遺跡は少なく、8世紀には行田市築道下遺跡（11）で掘立柱建物を含む集落が、加須市の水深遺跡（31）では土師器焼成の窯跡が検出されている。

町内では、住居跡が確認されているのは（道上）遺跡・三番遺跡で8世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・五番遺跡で須恵器や土師器が、（中宿）遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。

## 6 鎌倉～江戸時代

町内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

**多賀谷氏の館**は大字内田ヶ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年（1190）多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長3年（1251）多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間（1429-41）初め頃に結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端で、溝から12～14世紀の同安龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、ほぼ中央大福寺の北で、土壙から12～13世紀の同安龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

**道智氏館**は、大字道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を、承久3年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している。

**種垂城跡**は、大字上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。雲祥寺縁起には騎西城主小田頭家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したという。発掘調査では、溝・井戸・土壙・火葬跡を検出し、漆椀・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壙・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・籠状木製品が出土している。

**小沼耕地遺跡**では県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果はそれらに関わるものとも思われる。

やや南よりの**五番遺跡**では12～13世紀の龍泉窯系

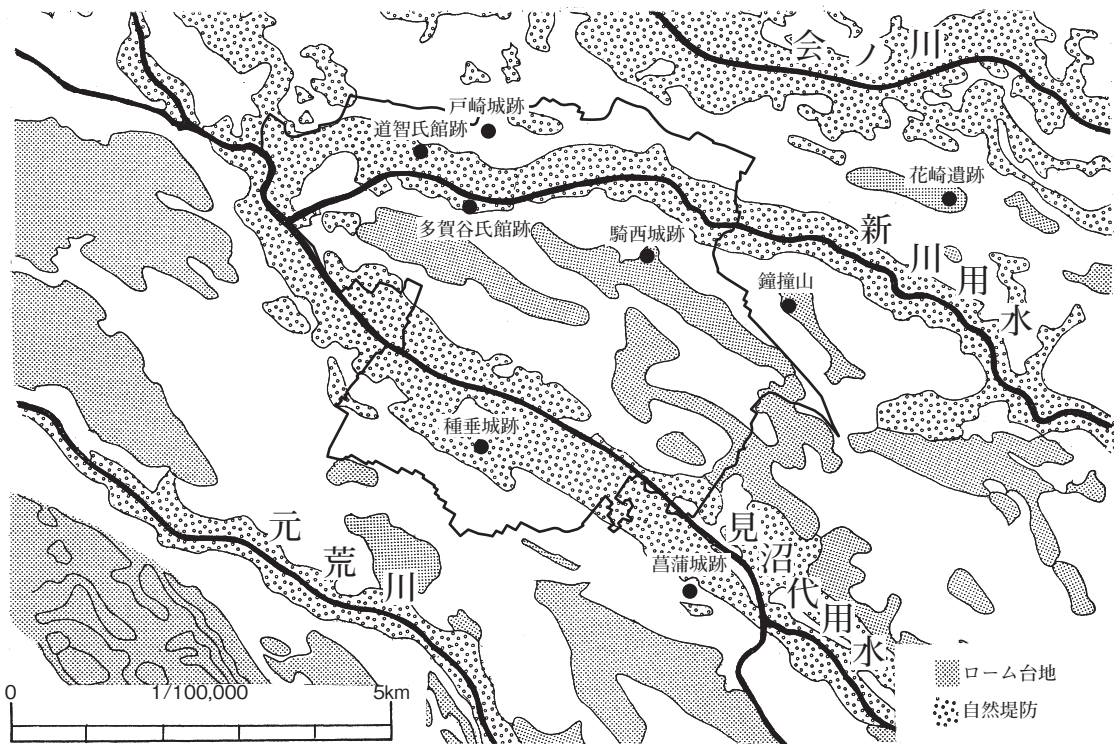
の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

**戸崎城跡**は『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允（『吾妻鏡』に戸崎右馬允国延が寿永3年（1184）源頼朝の御前の射手となる）の居跡なりとの記載がある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

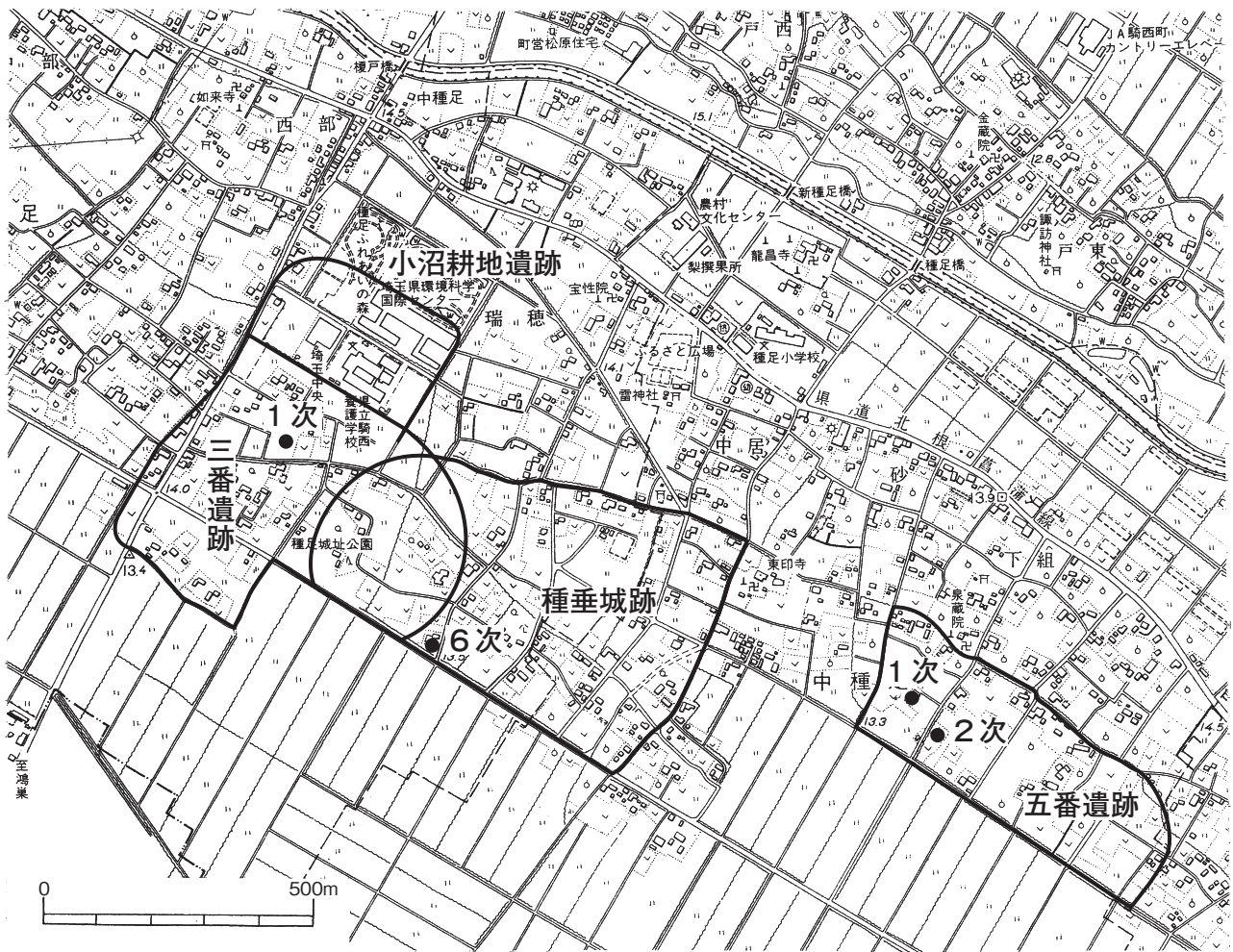
**騎西城**は文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壙1600基・井戸状遺構200基・障子堀4ヶ所・橋跡2ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。武器武具では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野杓・腰刀・薙鎌など、生活品では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆椀杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、生業では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・埴塙など、信仰では護符・呪符・舟形・位牌・銅碗・数珠など、流通では金・薦入り銭貨・荷札などがある。年代を計れる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・播鉢などがある。

このほかに、大字日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、大字下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。





第4図 周辺の微地形分類と城館跡



第5図 各調査区の位置

## 第II章 三番遺跡第1次調査

### 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成元年3月4日、開発者萩原ケサ氏から騎西町教育委員会に宛て、大字上種足字三番629における

住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は試掘調査を実施した結果建設予定地から埴輪片やかわらけ等が出土したため埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。



第6図 三番1次調査区の周辺

その後、開発者から発掘調査の依頼書が提出され、発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

#### 調査協力員

石井寿美子 石井のゑ 川島久子 栗原まさ子  
斉藤健 須黒すい 鈴木雅子 玉田美津枝  
長谷川当子 松村清子 山口保雄 吉田美津  
渡辺サヨ

文化庁通知 元委保記第5-3246号

平成元年12月19日

調査期間 平成元年7月11日～8月24日

#### (調査の経過)

建設予定地に12m×7mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。深さ30cmほどで湧水したため、東と北に側溝を設け水中ポンプにより排水した。遺構確認面の観察では重複する複数の遺構の存在が予想されたため、土層観察用ベルトを残し1堀・1～3溝等を掘り下げた。以降順次遺構の調査を進めた。確認面はローム層である。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に北壁面で瓦質の甕を確認し調査のため北側に拡張した。遺構確認時黒色土を確認した範囲は方形周溝墓?の地山が遺存していたものと理解した。基準杭の標高は中種足に所在する基準点から計測し使用した。

(周辺の調査) 北西70mの地点で試掘調査を実施した際、配石を伴う甕が出土しており、周辺に墓域が展開していたものと思われる。また、南西の種垂城跡第4次調査地点で戦国期の堀や古墳時代の須恵器や五世紀後半の埴輪片が確認されている。(騎西町史考古資料編1)

## 第2節 遺構と遺物

今回の調査では、古墳時代の方形周溝墓? 1基、中世から近世の堀・溝5条・井戸1基・土壌5基が確認された。調査面積が狭く堀・溝はその全容は明らかにできなかった。

堀 調査区東半分を占め南から東へL字状に屈曲する。幅は北辺は幅5.1m西辺は5m深さ85cmで、覆土中位に有機物が堆積している。

○出土遺物 在地産の土鍋(1)・鉢(2)、漆碗(7)・煙管の火皿(8)、がある。漆碗は内面朱・外面黒で高台裏にも朱模様がある。磨石(9～11)はよく使用され面を形成している。

溝 溝は全て南北方向に走り、1・2溝は併行する。4号溝 調査区西側で検出したもので全容は不明である。北辺幅1.5m以上東辺2m、深さ36cmである。覆土は黒褐色土・黒色土で、覆土や形態等から方形周溝墓の可能性を有する。出土遺物はないが、北方に位置する小沼耕地遺跡と同様に古墳時代前期と思われる。

新旧関係は旧:1堀→3→2→1号溝:新で出土遺物から全て17～18世紀のものと思われる。

#### ○出土遺物

1号溝 丹波産の播鉢(13・14) -17～18c-と、桶の側板(12)がある。

井戸 1基のみ。素堀で深さ1.9m。新旧関係は新:3溝→1井:旧。

○出土遺物 瀬戸美濃産の小杯(16)、肥前産の碗(17)・香炉(18)で17c代。

土壌 1号土壌の掘り込みは64cmとしっかりしている。4号土壌からは瓦質の甕が横位で出土した。完形である。覆土を洗浄したが出土遺物は無し。

#### ○出土遺物

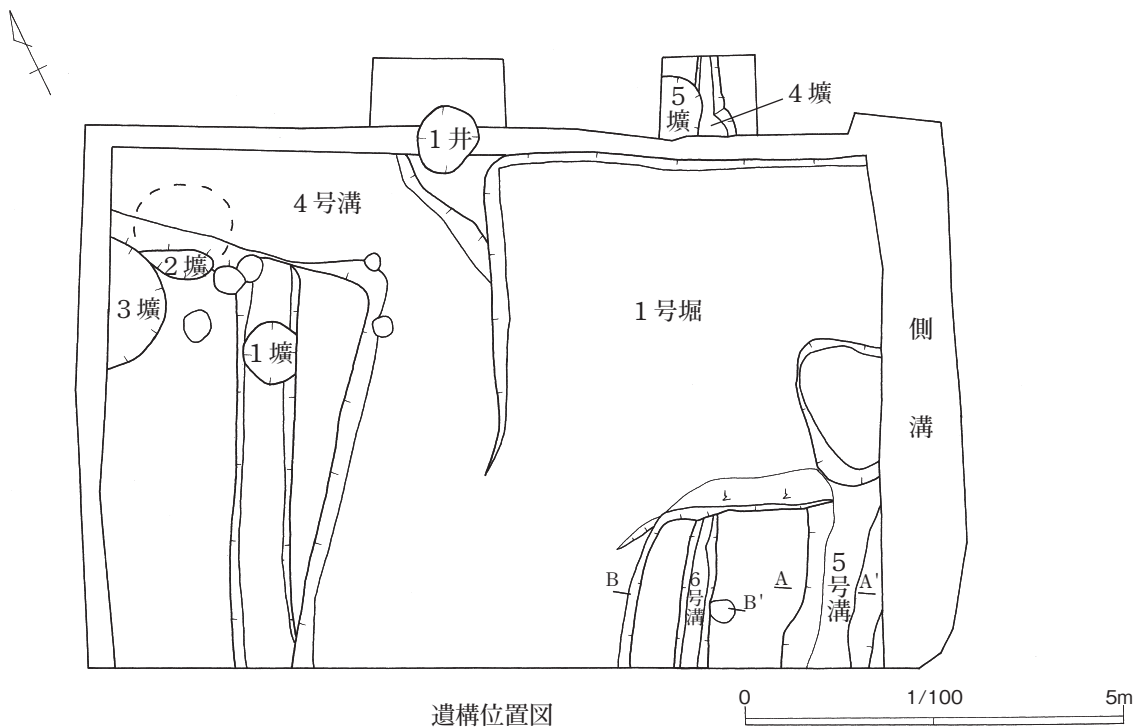
4号土壌 瓦質の甕(19)は完形で高さ31.5cmで14c代である。

#### 遺構外の出土遺物

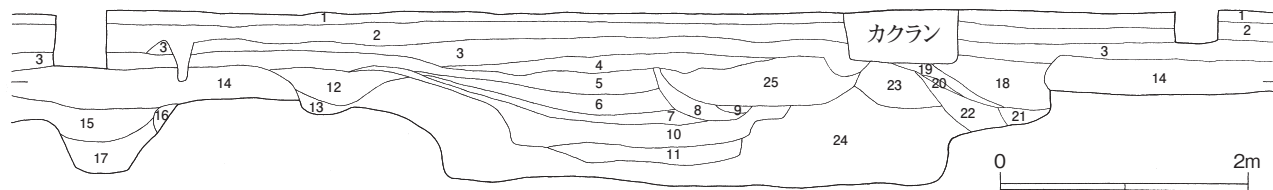
陶磁器は、13c代の龍泉窯系の青磁(20)や古瀬戸の平碗(21)など中世所産のものと、18c代の肥前産の磁器(23～25)がある。

石製品では、よく使用された砥石(26)、磨石(27・28)がある。また、板碑(29)が1堀の上位層で出土した。

埴輪片(30～37)は、突帯を有する円筒埴輪と思われる6世紀代のものである。他に土錘(38)・土玉(39)・縄文時代のものと思われる磨石(40)がある。



L=12.70m



南壁土層堆積状況

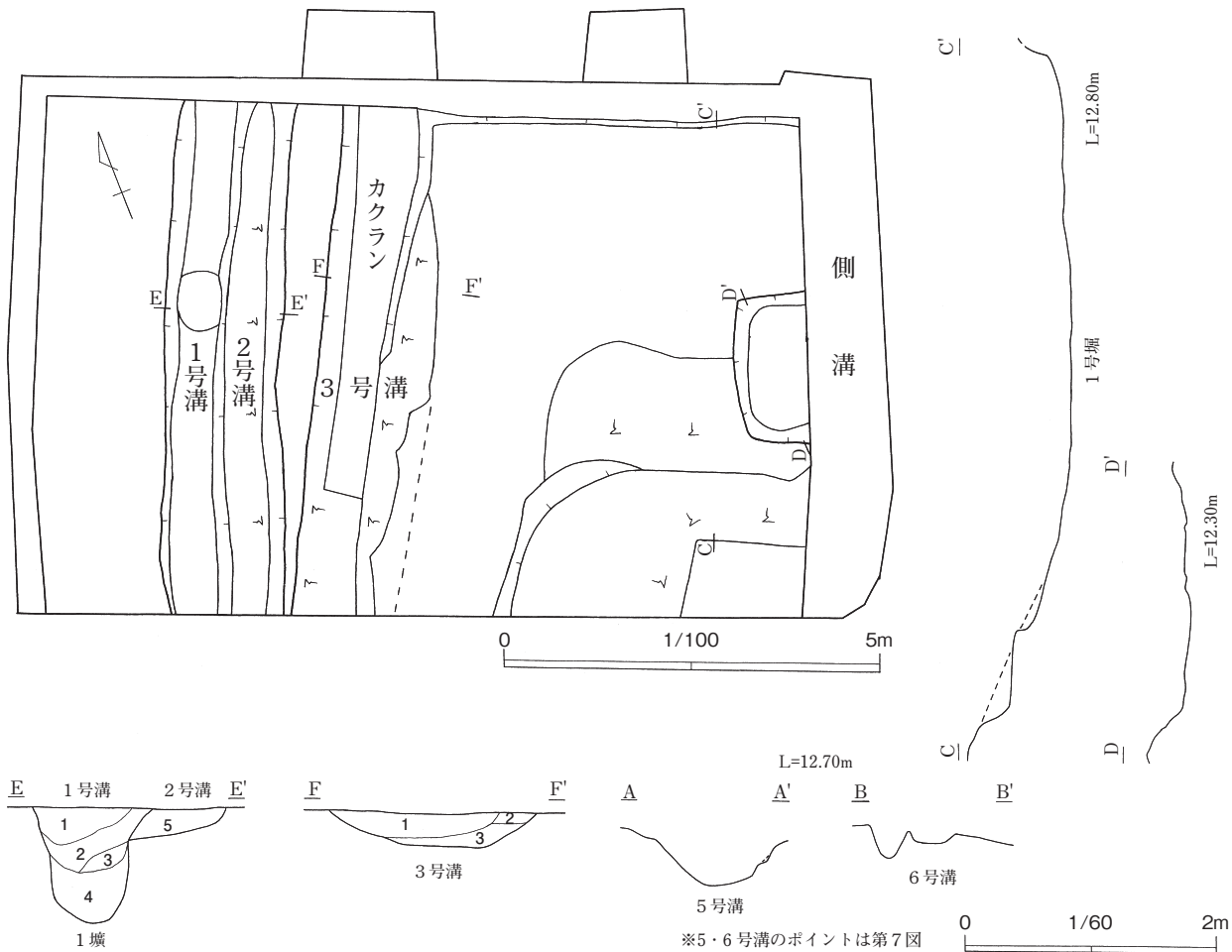
略称凡例

T テフラ / LR ローム粒子 / FER 酸化鉄粒子 / FE 酸化鉄 / BBR 黒褐色粒子 / CR カーボン粒子 / BR 黒色粒子

色調 / 含有物

- |                                       |                                   |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 耕作土                                 | 14 黒褐色 (灰味) / 灰白色 R·BBR·LR·FER·CR |
| 2 暗灰褐色 / T·LR·FER·BBR                 | 15 黒褐色 / LR·LB·FER·FE             |
| 3 暗灰褐色 / LR·FER·CR                    | 16 ソフトローム 2次堆積                    |
| 4 暗灰褐色 / LR·FER · 灰白色粘土 R·BR          | 17 黒褐色 / LR·LB·BBR                |
| 5 灰色 / FE·LR·BBR·CR                   | 18 灰白色 / FER·LR·FE·T              |
| 6 暗灰褐色 / FE·LR·CR                     | 19 ソフトローム黒色土の 2次堆積                |
| 7 灰白色 / 白色粘土 B·FE · 有機物 · C·FER       | 20 暗灰白色 / LR · 灰白色 R · 茶褐色 R      |
| 8 灰色 / LR·FER·FE·BBR                  | 21 暗灰色 / LB·LR·FE·BBR             |
| 9 灰褐色 (やや暗い) / FER·FE                 | 22 暗灰色 / LB·FE·LR                 |
| 10 暗灰褐色 / FE · 灰白色粘土 B·LR·BR·BB · 有機物 | 23 暗灰褐色 / LB·LR·FE·FER · 灰白色 R·CR |
| 11 暗灰褐色 (黒味) / FE                     | 24 黒褐色 / FE·FER·LR                |
| 12 灰白色 / FE·CR                        | 25 灰白色 / FE·LR·FER                |
| 13 黒褐色 (灰味) / FE · 灰白色 R              | 26 ローム層                           |

第 7 図 三番 1 次遺構位置及び南壁土層堆積状況



- 色調/含有物
- 1 灰白色/FER·LR·FE
  - 2 灰白色/黒褐色土 B·LB·BBR·LR
  - 3 灰白色/LB
  - 4 暗灰色(褐色味)/LB·LR·FER
  - 5 黒褐色土の2次堆積

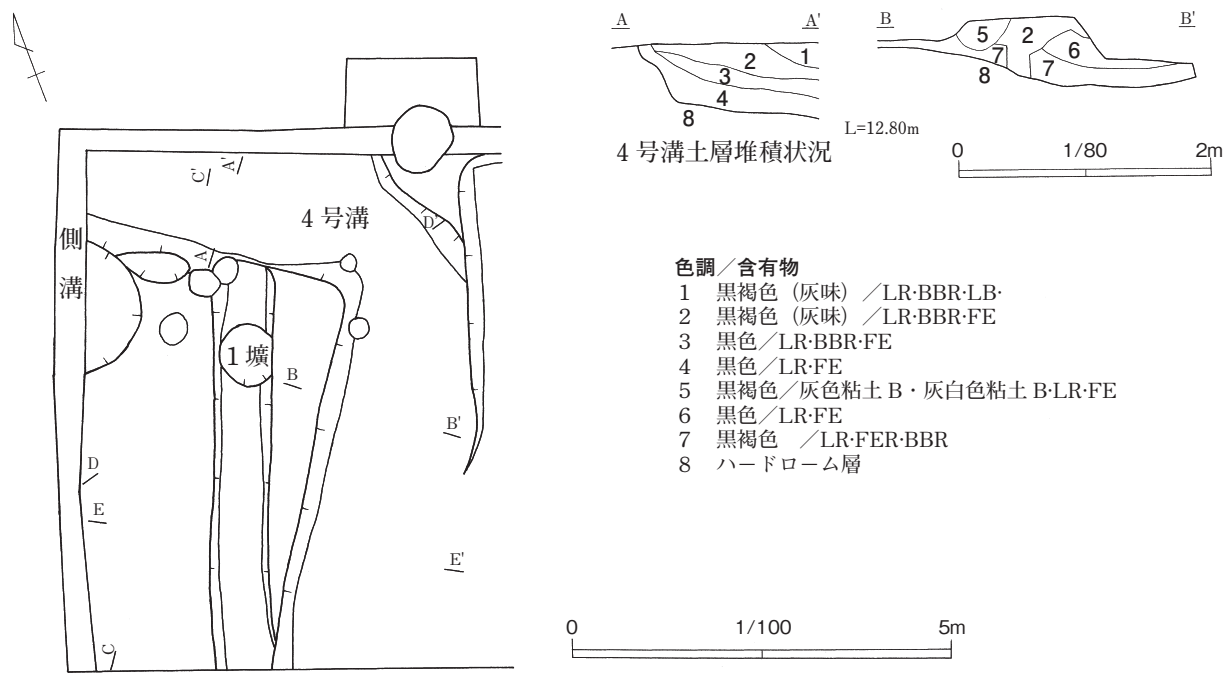
- 1 灰色(やや白味)/FE·FER·BBR
- 2 暗灰褐色/FER·BBR
- 3 暗灰褐色(やや暗い)/FE·FER·BBR

第8図 三番1次堀及び溝

( )は残存値、☆はセクション図計測値 重複:旧→新、○は当該遺構 覆土(T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、FE=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

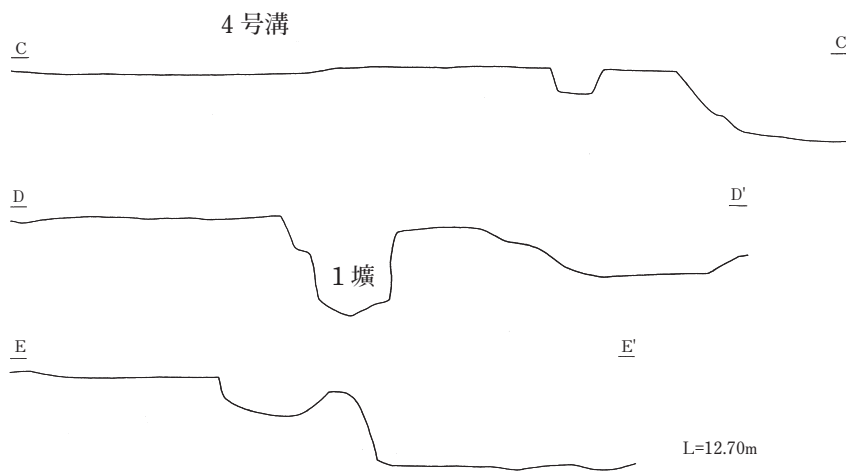
遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号堀	○→3溝	L字に屈曲	緩やか	南北幅(510)	85	暗灰褐色他	炭化物・植物遺体・漆椀・陶磁器・在地土器・砥石	18c 前	
1号溝	2溝→○ 1堀→○		直上気味	幅☆100	50	灰白色他	陶磁器・ほうろく	18c 代	
2号溝	3溝→○→ 1溝		直上気味	幅☆(75)	☆24	暗灰色(褐色気味)	板碑・板・鉄製品	18c 以前	
3号溝	○→1井 ○→2溝		緩やか	幅☆170	☆28	灰色(やや白味)他	素焼鉢・石	18c 以前	
4号溝	○→2堀		緩やか	幅(210)	36	黒褐色ほか	片口鉢	中近世? 古墳時代?	方形周溝墓?
5号溝	○→1堀		緩やか	幅126	42	不明			
6号溝	○→1堀 /4堀		緩やか	幅36	8	灰褐色			
1号井戸	3溝→○	円形	直上	90	190	不明	陶磁器17c 代	17c 後半	
1号土堀	○→1溝	円形	直上	68	☆93	暗灰色		18c 以前	
2号土堀	4溝→○	円形	緩やか	120×110	14	暗褐色			
3号土堀	なし	円形か	直上	164×(76)	28	不明			
4号土堀	5堀・6溝	不整形円形	緩やか	(70)	12	不明	瓦質甕(完形)	14c 代	
5号土堀	4堀・6溝	楕円形	緩やか	(85)×(50)	28	不明			

第2表 三番1次遺構一覧表

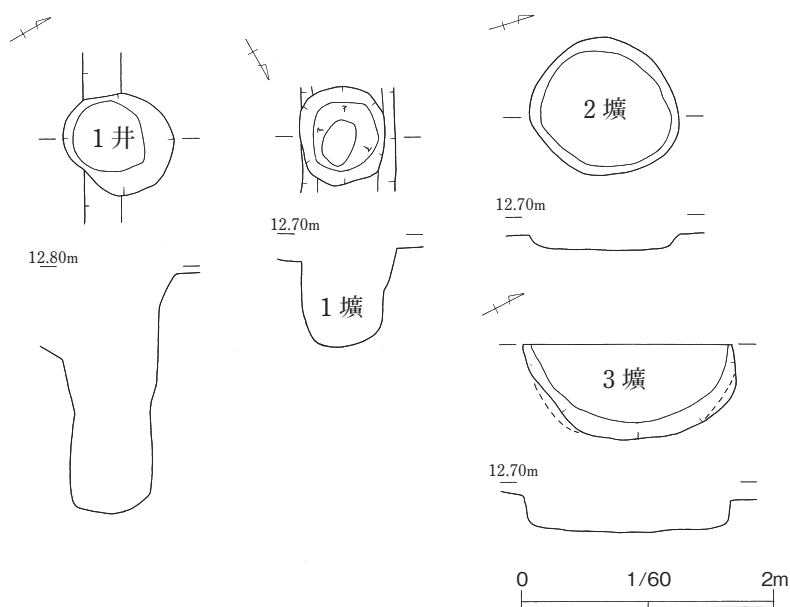


色調/含有物

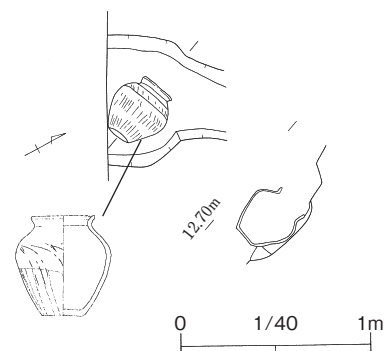
- 1 黒褐色 (灰味) /LR·BBR·LB·
- 2 黒褐色 (灰味) /LR·BBR·FE
- 3 黒色 /LR·BBR·FE
- 4 黒色 /LR·FE
- 5 黒褐色 /灰色粘土 B·灰白色粘土 B·LR·FE
- 6 黒色 /LR·FE
- 7 黒褐色 /LR·FER·BBR
- 8 ハードローム層



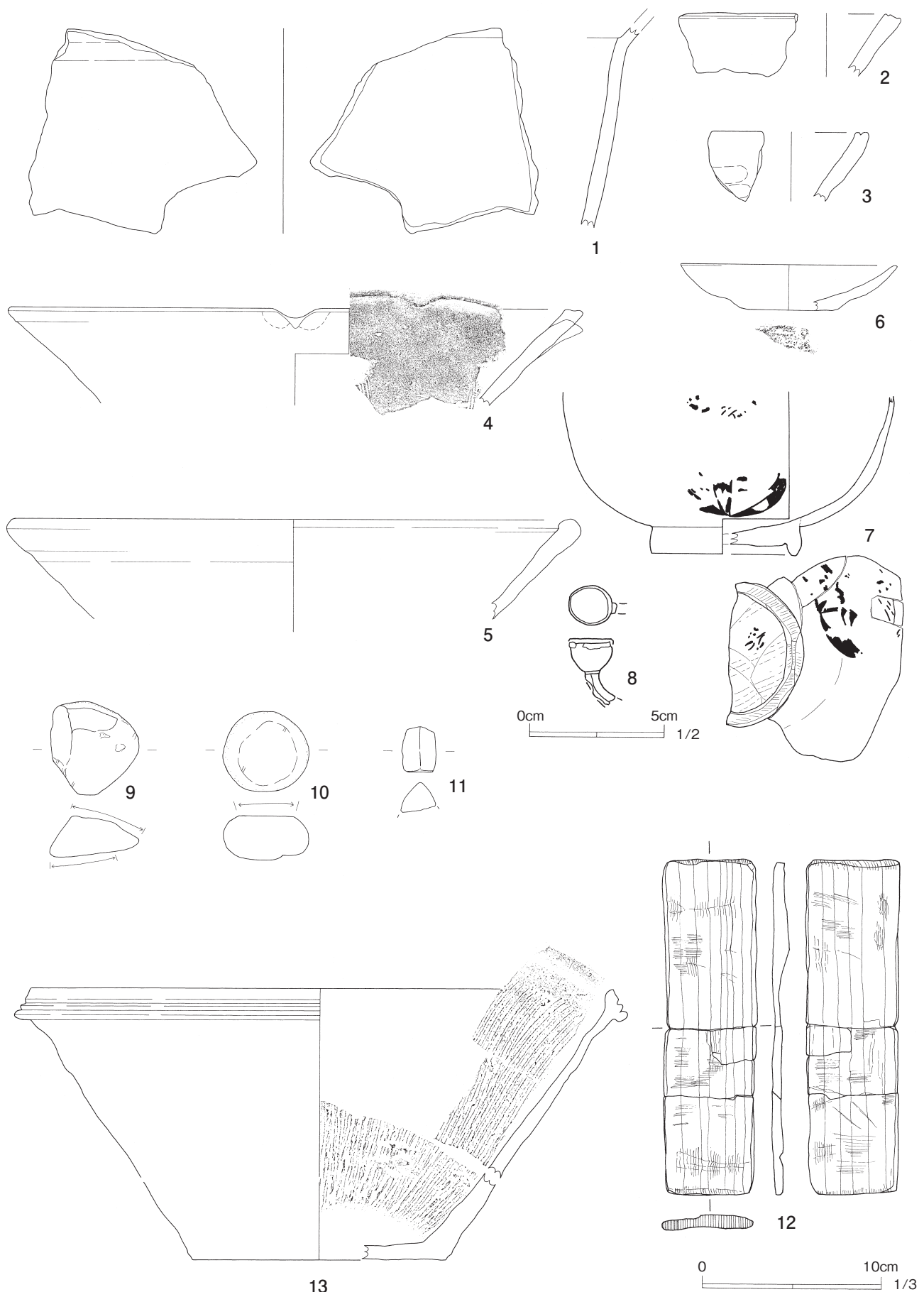
4号溝断面図



4 壙遺物出土状況

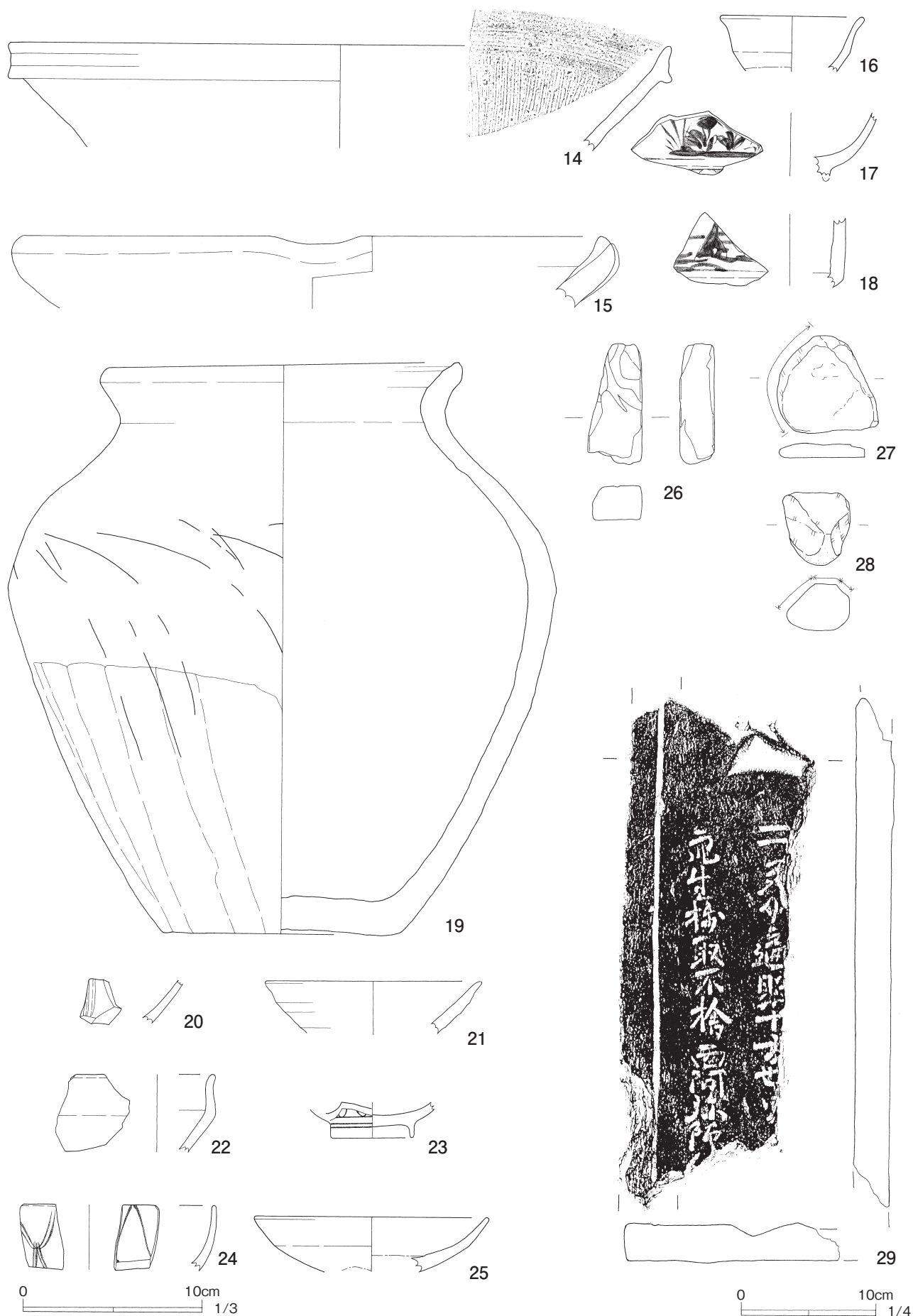


第9図 三番 1 次 4号溝及び土壙



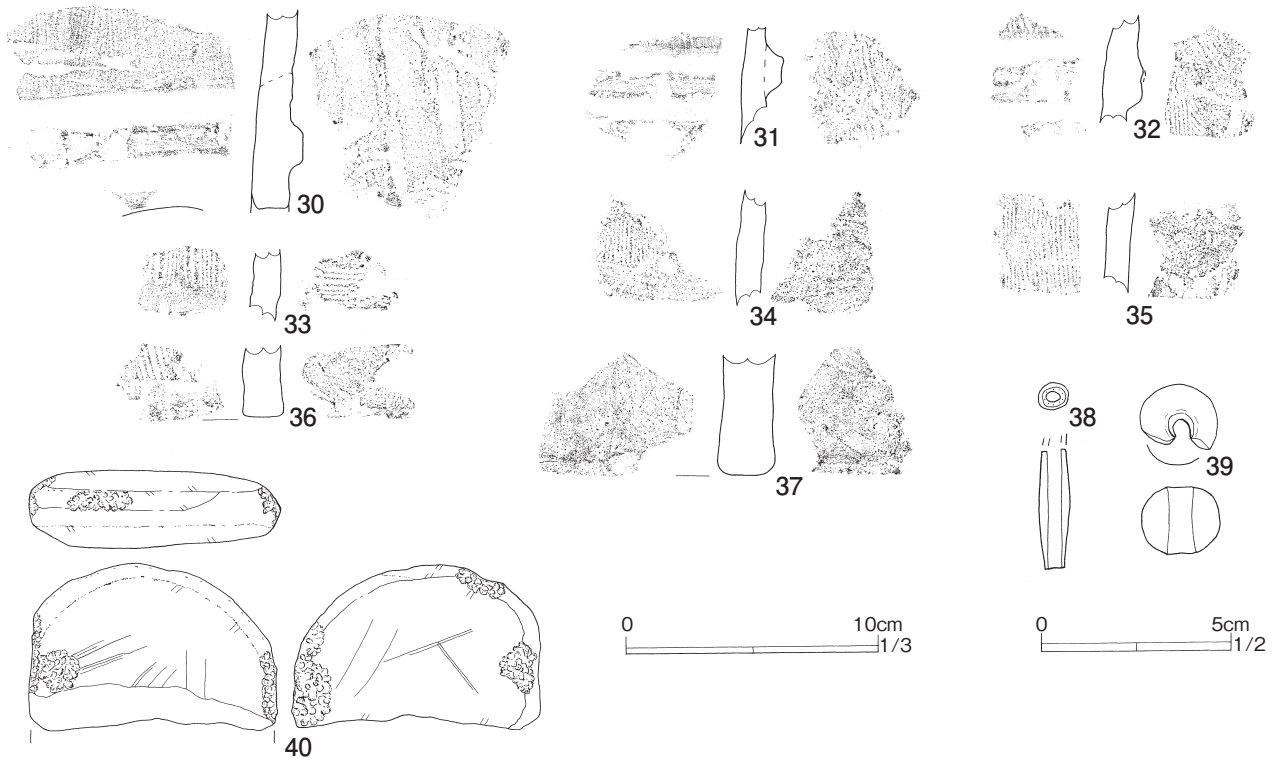
13

第10図 三番1次出土遺物 1



第11図 三番1次出土遺物2





第12図 三番1次出土遺物3

( )は残存値、\*は不確定な推定復元値

図No	遺物名	産地(材質)	出土地点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	型式	年代	遺物ID	備考
1	土鍋	在地	1堀(No113)	—	—	—		~16c	D001	
2	播鉢	在地	1堀(No71)	—	—	—			鉢001	
3	播鉢	在地	1堀(No31)	—	—	—			鉢002	
4	播鉢	在地	1堀(No55)	*32.0	—	—			町鉢277	
5	片口鉢	在地	1堀(No123)	*32.0	—	—			町鉢313	
6	かわらけ	在地	1堀(No72)	*12.0	*5.4	2.6			町 K299	
7	漆碗	木	1堀(No100)	*18.6	*8.1	9.0		江戸 中~		
8	煙管(雁首)	銅	1堀	1.9	1.5	2.25				
9	磨石	デイスait	1堀(No35)	4.2	4.9	2.3				
10	磨石	デイスait	1堀(No96?)	4.5	4.8	2.0				
11	砥石	泥岩	1堀(No26)	2.6	(1.9)	1.7				
12	桶(側板)	木	1溝(No5)	18.6	5.1	1.8		江戸 中~		
13	播鉢	丹波	1溝(No17)	*37.0	—	—		17c 中	鉢004	
14	播鉢	丹波	1溝(No13)、一括	*34.0	*14.0	—		17c 末~18c 初	鉢003	
15	片口鉢	在地	4溝(No30)	*33.5	—	—			町鉢278	
16	小坏	瀬戸美濃	1井	*8.0	—	—		17c 前	他001	
17	染付碗	肥前(磁器)	1井	—	—	—		17c 後	伊001	
18	染付香炉	肥前(磁器)	1井	—	—	—		17c 中~後	伊005	
19	甕	在地	4堀	19.4	13.2	31.5		14c	町袋109	
20	青磁碗	龍泉窯系中国	No131	—	—	—			町青099	
21	平碗	瀬戸美濃	No23	*12.0	—	—			町平014	
22	天目	瀬戸美濃	No48	—	—	—		17c 後	天001	
23	染付碗	肥前(磁器)	一括	—	4.6	—		18c 後	伊002	
24	染付小碗	肥前(磁器)	一括	—	—	—		18c 後	伊003	
25	青磁皿	肥前(磁器)	一括	*13.0	—	—		17c 後~18c 前	伊004	
26	砥石	石	一括	(6.5)	3.0	1.9			石001	
27	磨石	片岩	No52	5.5	5.6	0.8				
28	磨石	デイスait	一括	4.1	3.8	2.7				
29	板碑	石(緑泥石片岩)	No134	38.3	16.7	1.7			石001	
30	埴輪片	土器	No129	—	—	—		6世紀		
31	埴輪片	土器	No133	—	—	—		6世紀		
32	埴輪片	土器	1P	—	—	—		6世紀		
33	埴輪片	土器	No69	—	—	—		6世紀		
34	埴輪片	土器	1堀(No122)	—	—	—		6世紀		
35	埴輪片	土器	1堀(No29)	—	—	—		6世紀		
36	埴輪片	土器	一括	—	—	—		6世紀		
37	埴輪片	土器	No132	—	—	—		6世紀		
38	土錘	土製品	1堀(No61)	3.2	0.9	—				2.3g
39	土玉	土製品	一括	2.0	1.8	—				4.3g
40	磨石	石(普通輝石安山岩)	No77	(6.6)	9.9	3.2				

第3表 三番1次遺物一覧表

## 第三章 五番遺跡第1次調査

### 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成元年4月5日、開発者関美津子氏から騎西町教育委員会に宛て、大字中種足字九番1585-1における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は試掘調査を実施した結果建設予定地から土師器や須恵器等が出土したため埋蔵文化財が所在するものと

回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

その後、開発者から発掘調査の依頼書が提出され、発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

#### 調査協力員

石井寿美子	石井の系	小川せん	川島久子
栗原まさ子	島田せい	鈴木サク	高橋み弥子
田口島蔵	長谷川よめ	細野とみ	松村清子



第13図 五番1・2次調査区の周辺

山口保雄 吉田美津 渡辺サヨ  
文化庁通知 元委保記第5-4837号  
平成元年12月19日  
調査期間 平成元年9月18日～11月16日

#### (調査の経過)

建設予定地に9m×8.5mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。Ⅲ層(黒褐色)上面30cmほどで湧水したため、東と北に側溝を設け水中ポンプにより排水した。遺物の分布状況を把握するためⅣ層以下A～D、1～4の計16グリッドを設定し掘り下げた。結果は特に傾向は確認できなかった。調査は進行上南と北を半分ずつ掘り下げ遺物を取り上げた。調査区南東で確認された灰色粘土ブロックを先に調査し、以降ローム層を確認面とし土壌を調査した。遺構の図化は各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより、遺構位置図は平板測量により実測した。

基準杭の標高は中種足に所在する基準点から計測し使用した。

#### (周辺の調査)

調査区南で農地の天地返しの際土師器片及び弥生末から古墳初めの絵画土器が出土している。

## 第2節 遺構と遺物

今回の調査では、井戸が1基、土壌20基・灰色粘土ブロック1箇所、遺物集中・ピットが確認された。不整形の遺構が多く出土遺物が少ない等から時代は明らかではないが、土壌・粘土ブロックはおおよそ古墳時代、井戸は中世以降と思われる。

※確認面であるローム層の上層には茶褐色土の堆積はなく、遺構構築前に一度削平を受けているものと思われた。

出土した遺物は古墳時代(5～6c)の須恵器、古墳時代の土師器等が出土している。また、調査時に表面採集した土師器片に刻書があり絵画土器であると認定した。

**井戸** 調査区の北西に位置し、素堀で深さ1.26m。

覆土は暗褐色土である。

**土壌** 番号はNo23まで振ったが20基を土壌とする。調査区ほぼ全面に分布し、いずれも掘り込みが浅く溝状の細長な長方形か円形・不整形である。覆土は暗褐色土が多く上位層が流入したものである。

各土壌から遺物は出土しているものの、破片が多く、性格を推定するに至らない。17号土壌からは、小型壺の破片(10)と須恵器甕胴部破片(11)が出土している。須恵器については小破片であるが、内面の青海波紋を磨り消している痕跡から陶邑TK23以前のものと考えられる。21号土壌出土の壺(15)は口縁部～頸にかけて欠損しているが、外面にヘラミガキを残すなど古い様相を残している。22号土壌については、坏(16)のほか高坏(19)も同じ土壌から出土している。

土壌の中には17号土壌や、22号土壌のように比較的古い様相と新しい様相を示す土器が混在しているものもあるが、全体に各遺構からの遺物量が少ないためはっきりした傾向はわからなかった。

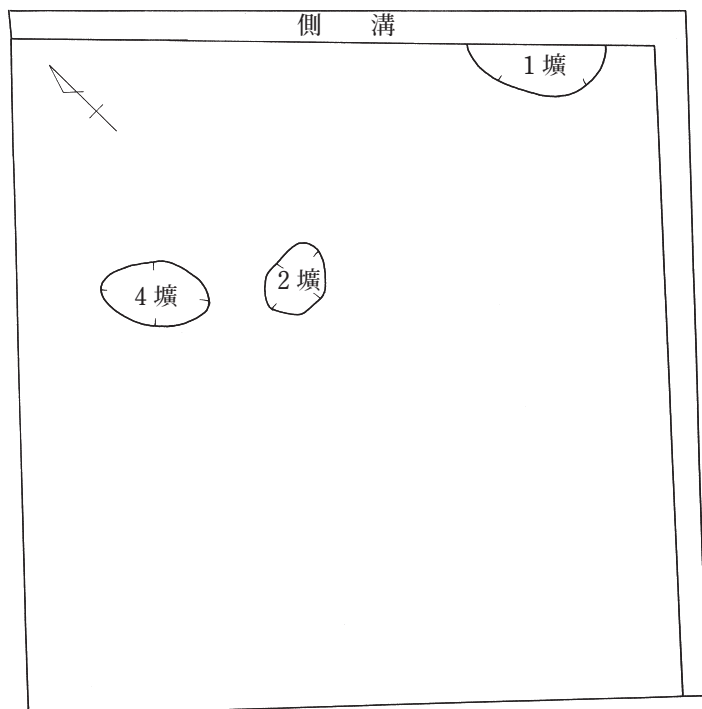
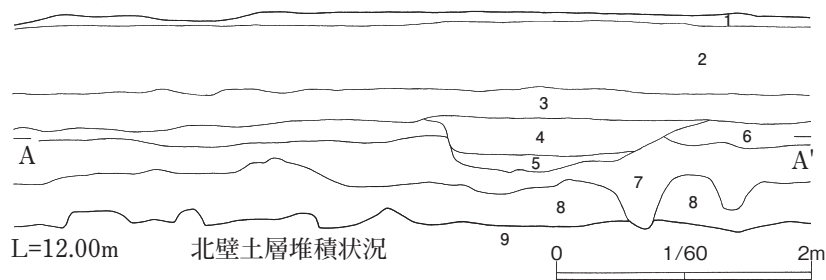
**灰色粘土ブロック** 調査区の南西に位置し1.2m×1.7mで高さ50cmに暗褐色土内に白色の粘土ブロックががまとまって検出された。中央右下に焼土が確認されたが、カマドなどの焼成遺構とは認定できなかった。ブロックからは坏(21)や管玉(22)が出土している。

他に北東部で高坏取り上げNo172の坏部(42)が出土している。

#### 遺構外の出土遺物

調査区全体を眺めると、破片であるが須恵器が多く出土している。それらについて簡単に触れることとする。

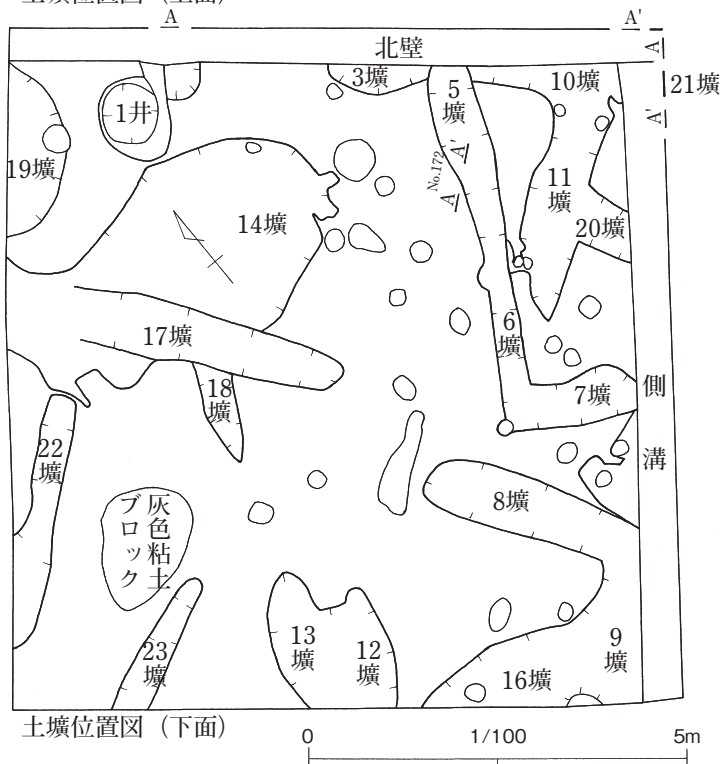
23は立ち上がりの部分に指押さえが残ることから名古屋付近のものである可能性が高く、型式は陶邑TK208相当で5世紀中葉、24はTK47相当で5世紀末から6世紀初頭にかけてのもので、この形式のものは図化不可能な中破片の中にも複数存在する。25はMT85相当で6世紀後半と考えている。26は碗の可能性もあるが小破片のため器種等確定は出来ない。5世紀代か。27は壺などと思われるが小破片のため



色調/含有物

- 1 耕作土
- 2 灰白色 (砂質層) / FE·FER
- 3 黒灰色 / 灰白色土 B·BR·FE·FER
- 4 暗灰色 / 灰白色土 B · 灰白色土 R·FER·FE
- 5 暗灰色 (やや暗い) / 灰白色土 B · 灰白色土 R·FER·FE
- 6 黒色 / 灰白色 R·LR·FE
- 7 黒褐色 (褐色味) / FE·LR·FER·LB
- 8 ソフトローム
- 9 ハードローム

土壌位置図 (上面)

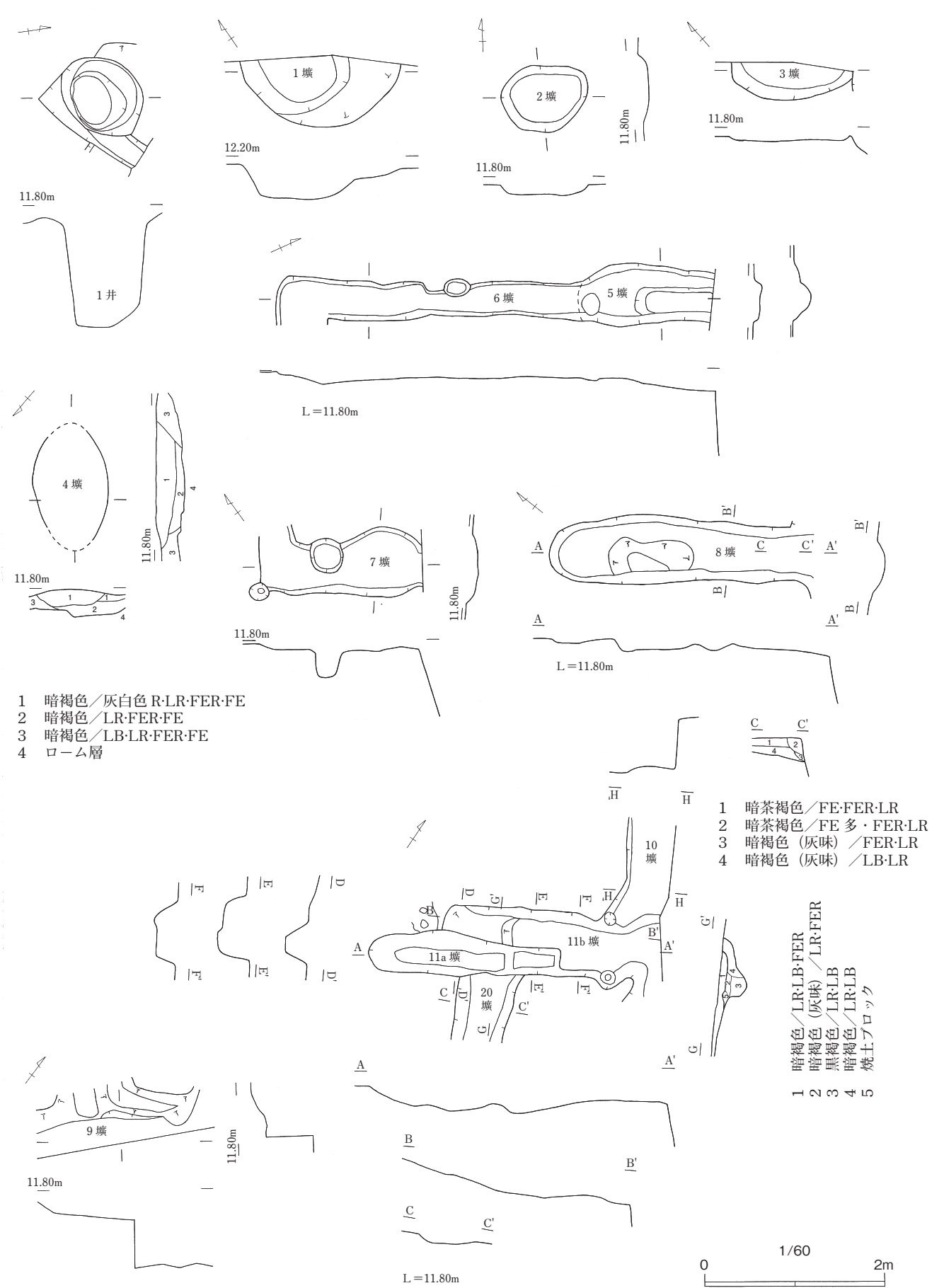


土壌位置図 (下面)

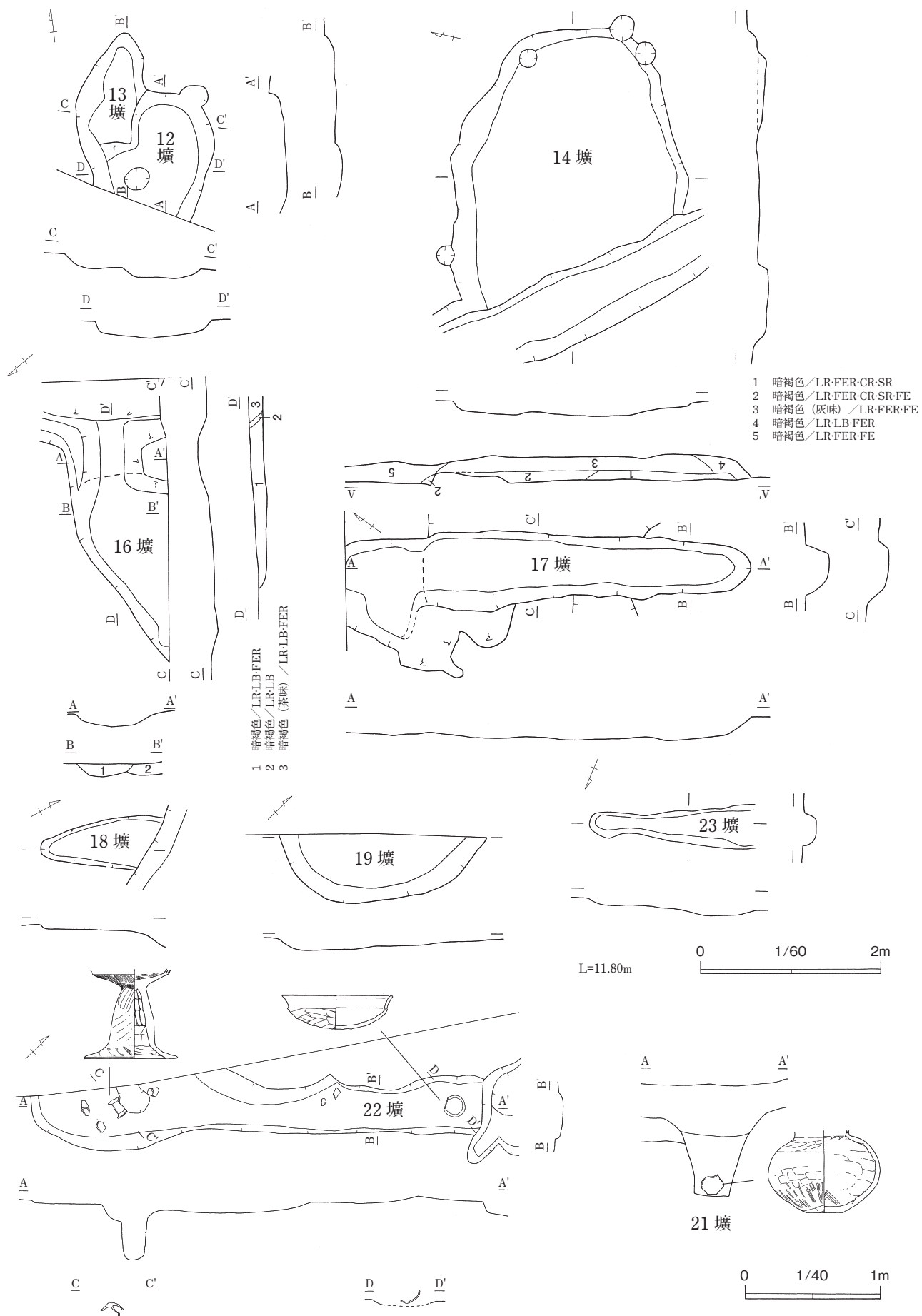


調査風景

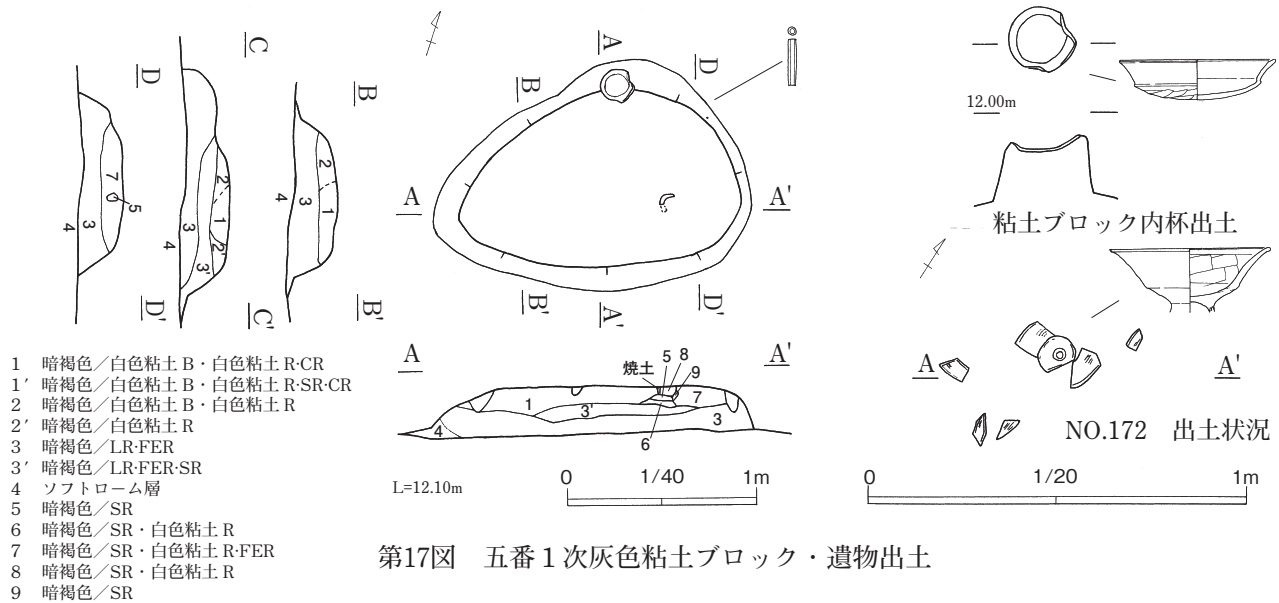
第14図 五番 1 次遺構位置及び北壁土層堆積状況



第15図 五番1次土坑1



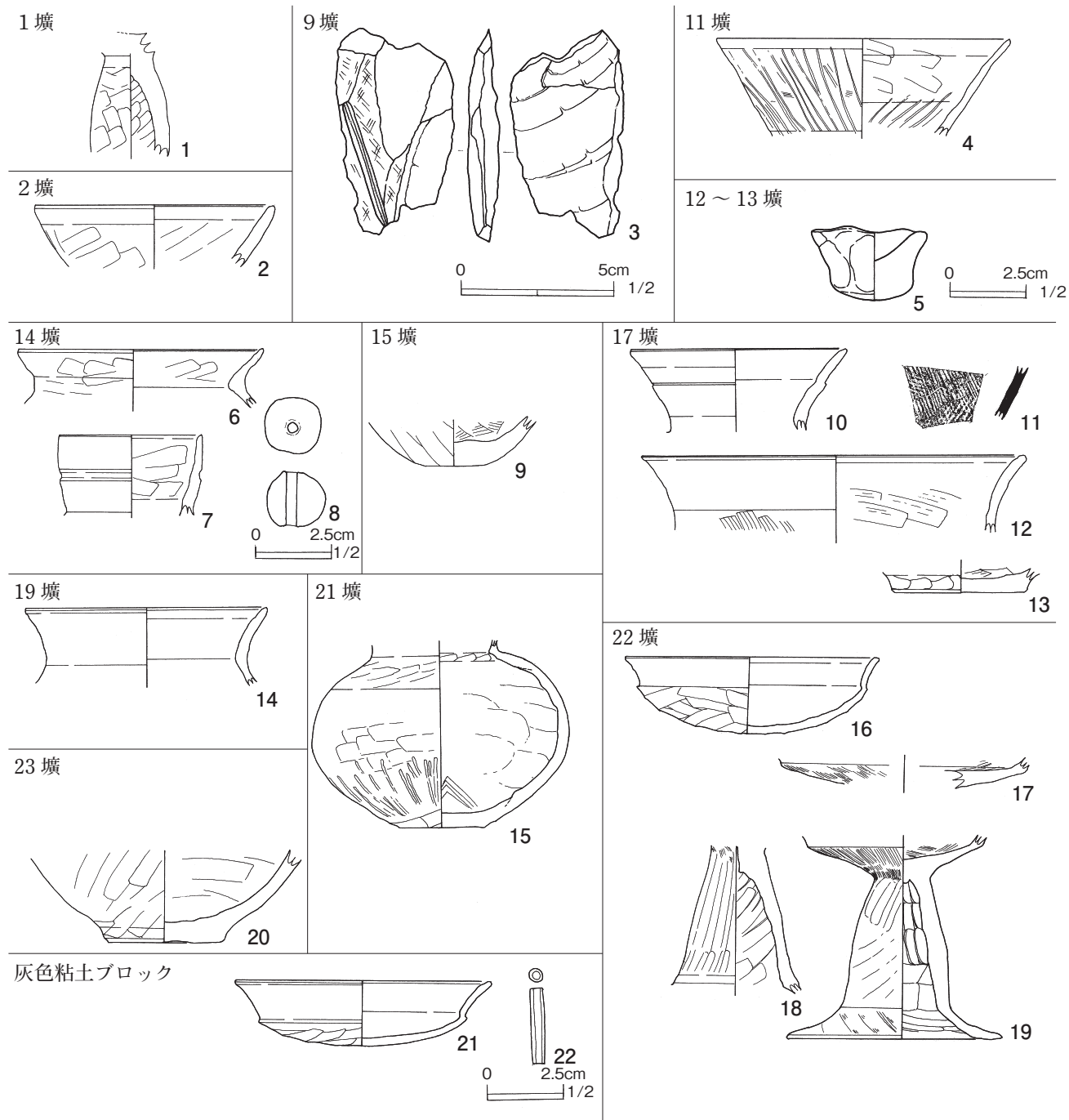
第16図 五番1次土坑2



( )は残存値、☆はセクション図計測値 重複:旧→新、○は当該遺構 覆土(T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、FE=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

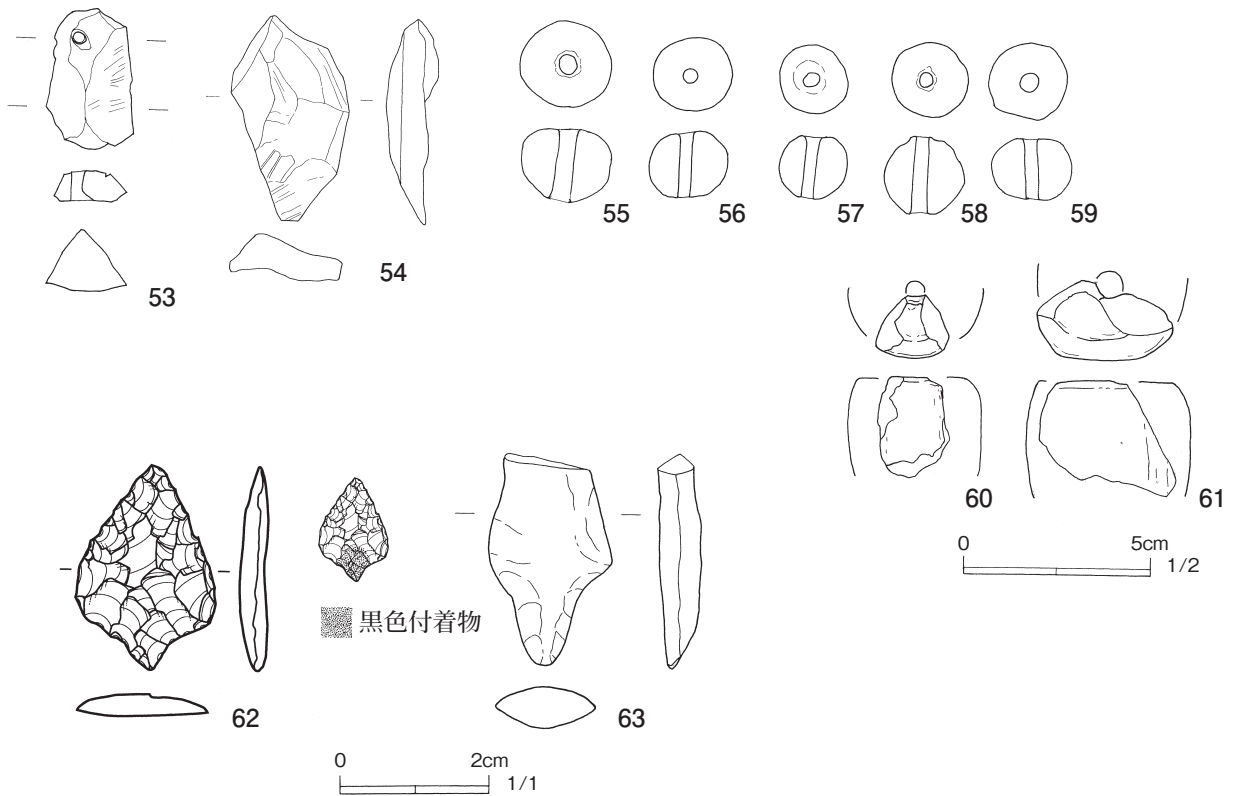
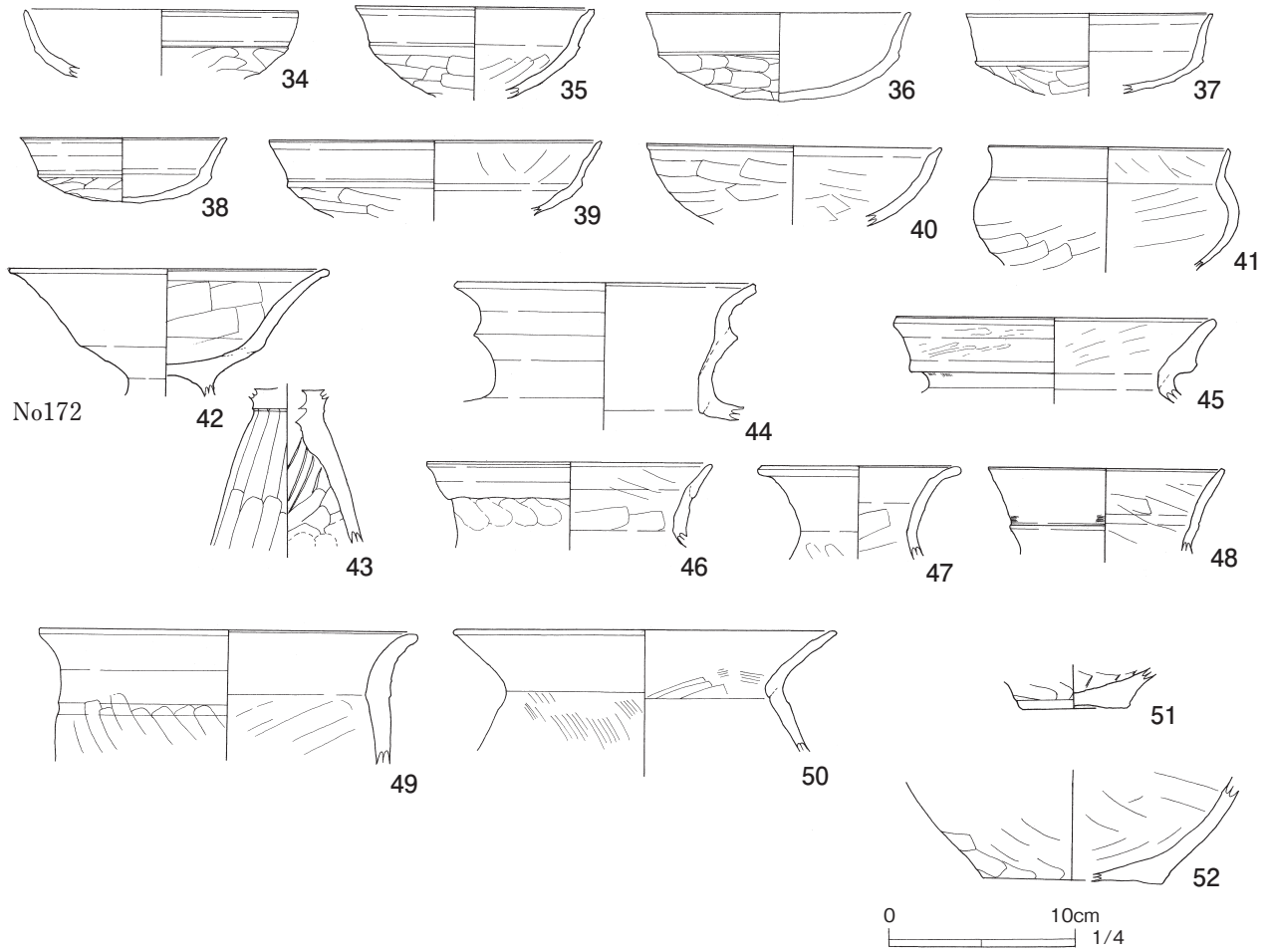
遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号井戸	なし	楕円形	直上	104×76	126	暗褐色		古墳か	
1号土壌	?	円形	緩やか	180×(80)	40		土師器 (甕・坏)	古墳か	底面に段
2号土壌	?	楕円形	緩やか	98×80	10	暗褐色		古墳か	
3号土壌		円形か	緩やか	138×(44)	5	暗褐色		古墳か	
4号土壌	14壇→○ 17壇	楕円形	緩やか	130×85	24	暗灰褐色	土師器 (甕・坏)	古墳か	
5号土壌	6壇	長方形	緩やか	(150)×66	6	暗褐色	土師器 (甕・坏)	古墳か	
6号土壌	5壇	長方形	緩やか	(348)×47	8	暗褐色		古墳か	2基重複
7号土壌		不整形長方形	緩やか	(181)×80	10	暗褐色		古墳か	
8号土壌	○→9壇	長方形	緩やか	(306)×80	10	暗褐色		古墳か	底面に落込
9号土壌	8壇→○	不明	緩やか	(158)×(42)	20	暗褐色		古墳か	
10号土壌	欠番								
11a号土壌	12壇→○→ 10・20壇	長方形	緩やか	(216)×48	28	暗褐色	土師器 (甕)	古墳か	
11b号土壌	12壇→○→ 10・20壇	長方形	緩やか	(246)×72	32	暗褐色	土師器 (甕)・焼土ブロック ・石	古墳か	
12号土壌	○→11・13 壇	隅丸長方形 か	緩やか	(130)×(110)	20	暗褐色	土師器 (甕・甗)	古墳か	
13号土壌	12壇	不整形	緩やか	(150)×(70)	12	暗褐色	土師器 (甕・手づくね)	古墳か	
14号土壌	○→2・4 壇	不整形	緩やか	(310)×264	10	暗褐色 (灰 色味)	土師器 (甕・坏・甗)・骨	古墳か	
15号土壌	欠番								
16号土壌	他落ち込み	不整形	緩やか	(190)×(100)	10		土師器 (甕)、炭化物、石	古墳か	
17号土壌	他落ち込み	長楕円形	緩やか	(374)×75	25	暗褐色	土師器 (甕)	古墳か	
18号土壌	17壇	不整形楕円形	緩やか	(136)×60	4	不明	土師器 (甕) 石	古墳か	
19号土壌	なし	楕円形	緩やか	230×(80)	13		土師器 (甕)	古墳か	
20号土壌	11壇→○	長方形か	緩やか	(72)×68	8			古墳か	
21号土壌	なし	不明	緩やか	☆150	☆120	黒褐色	土師器 (甕) 一口縁欠損	古墳か	
22号土壌		長方形	緩やか	668×62	20		土師器 (坏-完形、高坏)	古墳か	複数遺構重複
23号土壌	なし	不整形	緩やか	(186)×50	16		土師器 (甕)	古墳か	
灰色粘土 ブロック	?	不整形楕円 形	緩やかに 盛り上がる	☆120×168	厚さ☆50	暗褐色 (白 色粘土ブロ ック多量)	土師器 (坏・甕) 管玉・焼土	古墳か	

第4表 五番1次遺構一覧表

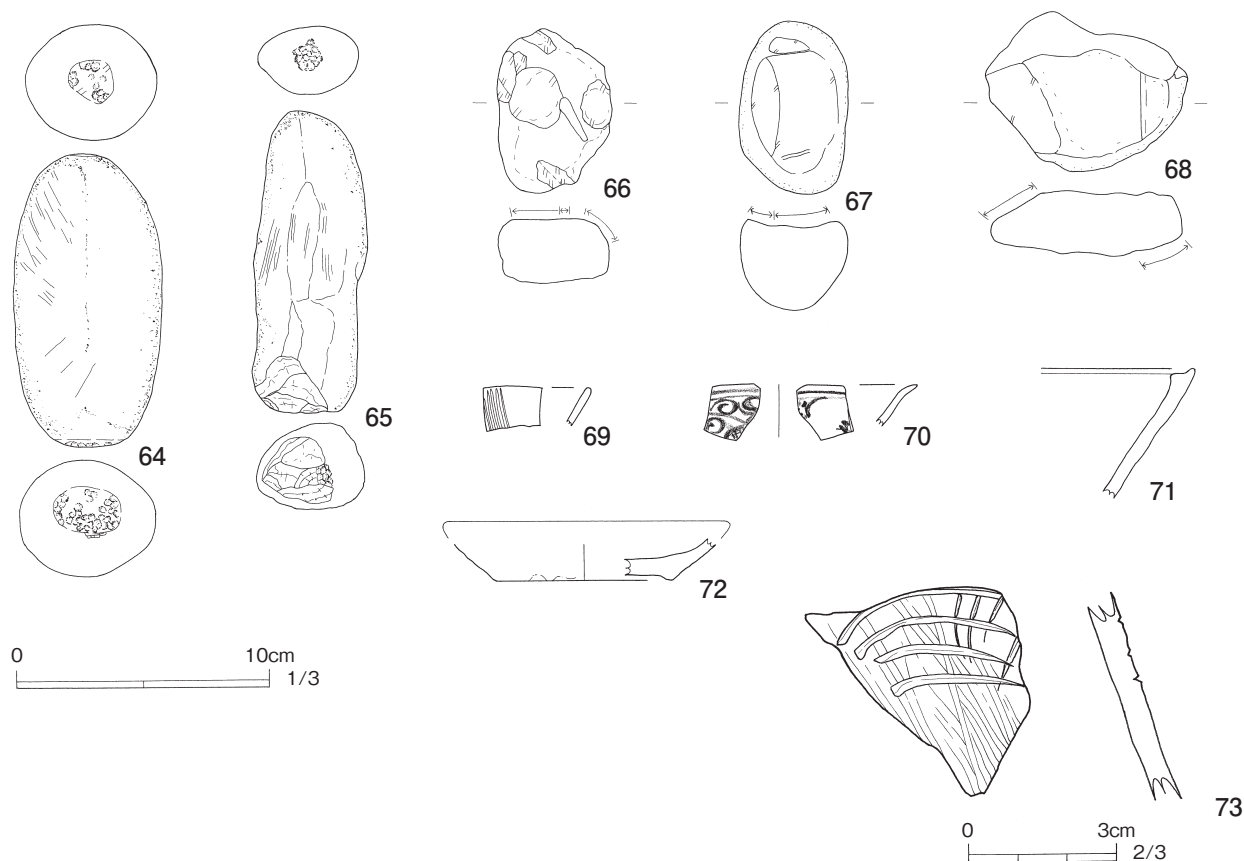


第18図 五番1次出土遺物1





第19図 五番1次出土遺物2



第20図 五番1次出土遺物3

確定は出来ない。胎土等から関西のものの可能性もある。5世紀代のものか。28～30は壺として取り扱ったが、28、29は壺の可能性もある。28はTK23前後で6世紀初め、29は5世紀末、30はTK10相当で6世紀中頃から後半にかけてと考えている。

31～33は甕胴部の破片である。31・32は内面の青海波紋をすり消していることから5世紀代、33には外面に櫛歯カキ目、内面に青海波紋を残すことから6世紀代と考えた。また、33の産地については群馬産の可能性もある。

また、11・25・28・29・31・32は断面の色調が小豆色を呈するがこのうち、胎土・焼成等により11・31・32の甕の破片は和泉陶邑産の可能性があると指摘を得ている。

土師器については、34～39のように模倣坏の範疇に入る坏類が主流を占めているが、40のような内斜口縁坏ごくわずかではあるが含まれる。

また、42・44のような高坏や有段口縁壺が存在する一方、49・50のように比較的新しい様相を示す物も存在している。

このようなことから全体に5世紀代から6世紀初頭にかけてのグループと6世紀中頃以降のグループが存在していることがわかる。

土器以外では砥石(53)、石製品の未製品(54)、土玉(55～59)、土錘(60・61)などがある。ほかに埴輪片数点あり、古墳の存在が予想される。縄文時代では茎部に黒色の付着物(タールか)ある晩期の有茎石鏃(62)や敲石(64・65)がある。

中世以降では同安窯系の青磁碗(69)や志野皿(72)が出土している。

また、調査区南の採集品ではあるが絵画土器の小片(73)を掲載する。壺の肩部又は胴下半で薄く堅緻な土器で、器面は良くヘラミガキされ内面はケズリ整形を施す。ヘラ状の工具で鋭い沈線を数条の縦位線→弧状線の順に描く刻書土器である。描き順から舟などではなく、黥面とも思われ絵画土器としてよいだろう。

( )は残存値、\*は不確定な推定値

図No	遺物名	出土地点	遺存状態	法量 (cm)	胎土・材質等	焼成	色調	備考	遺物 ID
1	土師器 高坏	1号土壌	脚部破片	器高(6.8)	やや粗い/1mm程度の小石・ 砂粒多量/角閃石・軽石・ガ ラス質粒子・赤色粒子少量	やや不良	橙 (Hue2.5YR7/6)	器面がかなり荒れ ている	402-1804- 0001-0025
2	土師器 鉢	2号土壌	口縁部破片	口径 15.5 器高 4.0	非常に粗い/ザラザラ/1mm 以下の小石・砂粒多量/長石 ・赤色粒子若干/ガラス質粒 子・角閃石少量	やや不良	赤灰 (Hue2.5R5/1)	器面がかなり荒れ ている	402-1804- 0001-0026
3	砥石	9号土壌	一部欠損	長さ(7.0) 幅(3.7) 厚さ(1.0) 重量 26.0g	泥岩	—	—	所々欠損し全形は 不明。使用痕あり	401-1804- 0001-0001
4	土師器 高坏	11号土壌	坏部破片	口径 18.8 器高 6.5	緻密/砂粒若干/角閃石・雲 母軽石・赤色粒子少量	良好	にぶい黄橙 (Hue10YR7/3)	外面にヘラミガキ	402-1804- 0001-0027
5	手捏土 器	12・13土 壌	完形	口径 3.7 底径 2.6 器高 2.3	密/砂粒・角閃石・軽石・ガ ラス質粒子若干	良好	灰 (Hue5Y6/1)		403-1804- 0001-0003
6	土師器 甕	14号土壌	口縁部破片	口径 15.8 器高 3.5	粗い/ザラザラ/砂粒・白色 粒子多量/角閃石・軽石・ガ ラス質粒子少量	やや不良	褐灰 (Hue10YR5/1)		402-1804- 0001-0029
7	土師器 壺	14号土壌	口縁部小破 片	口径 10.3 器高 5.2	非常に粗い/ザラザラ//1mm 以下の小石・砂粒・白色粒子 多量	良好	明赤褐 (Hue2.5YR5/8)	小型の壺か	402-1804- 0001-0028
8	土玉	14号土壌	完形	径 1.9 穿孔 0.4 重量 6.4g	密/白色粒子少量	良好	橙 (Hue7.5YR7/6)		403-1804- 0001-0010
9	土師器 甕	15号土壌	底部のみ	底径 3.8 器高(3.2)	密/砂粒・ガラス質粒子多量 /1mm程度の小石少量	良好	黒褐 (Hue10YR2/2)		402-1804- 0001-0030
10	土師器 壺	17号土壌	口縁部破片	口径 13.7 器高(5.3)	密/砂粒・赤色粒子多量/白 色粒子少量	良好	橙 (Hue5YR7/6)	軟質でもろい	402-1804- 0001-0031
11	須恵器 甕	17号土壌	胴部小破片	厚さ 0.7	密/黒色粒子・白色粒子少量	良好	灰(HueN6/ ) 断面小豆色		402-1804- 0001-0011
12	土師器 甕	17号土壌	口縁部破片	口径 24.8 器高(4.8)	密/雲母非常に多量/砂粒・ 角閃石を多量/長石を少量	良好	にぶい橙 (Hue5YR7/4)		402-1804- 0001-0033
13	土師器 甕	17号土壌	底部のみ	底径 8.4 器高(1.5)	非常に粗い/ザラザラ/1mm 以上の小石・砂粒・角閃石・ 雲母・ガラス質粒子多量/1 mm以上の小石若干	やや不良	にぶい橙 (Hue5YR)6/4		402-1804- 0001-0032
14	土師器 甕	19号土壌	口縁部破片	口径 15.5 器高(5.2)	やや粗い/少しザラザラ/砂 粒・白色粒子・角閃石・ガ ラス質粒子若干	良好	浅黄橙 (Hue7.5YR8/3)		402-1804- 0001-0034
15	土師器 壺	21号土壌	口縁部欠損	底径 5.8 器高(5.8)	密/砂粒・角閃石を多量	良好	黒褐 (Hue5YR2/1)/	表面に鉄分が多く 付着	402-1804- 0001-0004
16	土師器 坏	22号土壌	一部欠損	口径 16.6 器高(5.0)	密/砂粒・角閃石・ガラス質 粒子若干	良好	浅黄橙 (Hue7.5YR8/3)		402-1804- 0001-0005
17	土師器 高坏	22号土壌	坏部破片	器高(2.0)	やや粗い/ザラザラ/砂粒・ ガラス質粒子多量/角閃石・ 軽石少量	良好	明赤褐 (Hue2.5YR5/6)	外面に粗いハケ目	402-1804- 0001-0036
18	土師器 高坏	22号土壌	脚部破片	器高(9.6)	緻密/なめらか/砂粒・ガ ラス質粒子・雲母多量	良好	暗褐 (Hue10YR3/3)	外面に縦方向丁寧 なヘラ削り	402-1804- 0001-0035
19	土師器 高坏	22号土壌	坏部～脚部	裾部径 14.0 器高(13.0)	密/角閃石・ガラス質粒子・ 軽石若干	良好	明赤褐 (Hue2.5YR5/8)	坏部内外面にハケ 目	402-1804- 0001-0001
20	土師器 甕	23号土壌	底部のみ	底径 7.4 器高(6.3)	粗い/1～1mm程度の小石・砂 粒やや多量/赤色粒子少量	やや不良	にぶい赤褐 (Hue2.5YR4/4)		402-1804- 0001-0037
21	土師器 坏	灰白色粘 土ブロッ ク	一部欠損	口径 16.8 器高 4.4	密/角閃石・ガラス質粒子・ 軽石若干/赤色粒子・白色粒 子少量	良好	にぶい橙 (Hue7.5YR7/4)		402-1804- 0001-0002
22	管玉	灰白色粘 土ブロッ ク	完形	長さ 2.4 径 0.4 穿孔 0.3 重量 1.0g	蛇紋岩	—	—		404-1804- 0001-0002
23	須恵器 坏蓋	No69	口縁部の残 りわずか	器高(4.0)	密/白色粒子多量/1mm以下 の小石・砂粒少量	良好	オリープ灰 (Hue2.5GY6/1)		402-1804- 0001-0018
24	須恵器 坏蓋	IV・V層	小破片	口径 12.0 器高(3.2)	緻密/1mm以下の小石極少量	良好	灰(HueN5/ ) 断面小豆色	一部自然釉がかか る	402-1804- 0001-0006
25	須恵器 坏身	No198	体部小破片	器高(4.0)	密/砂粒・白色粒子少量	良好	灰白 (HueN7/ )		402-1804- 0001-0020

第5表 五番1次遺物一覧表1

図No	遺物名	出土地点	遺存状態	法量 (cm)	胎土・材質等	焼成	色調	備考	遺物 ID
26	須恵器 器種不明	No235	胴部小破片	器高(6.2)	緻密/砂粒少量	良好	暗緑灰 (Hue5GY4/1)	塀か	402-1804-0001-0021
27	須恵器 壺	Ⅳ・Ⅴ層	口縁部小破片	口径 6.0 器高(2.2)	緻密/1mm以下の小石極少量	良好	灰白 (Hue10Y8/1)	器種の特定は困難。 器面の荒れは被熱の 為か	402-1804-0001-0014
28	須恵器 甗	Ⅳ・Ⅴ層	頸部小破片	器高(2.4)	密/白色粒子やや多量	良好	オリーブ黒 (Hue10Y3/1) 断面小豆色	器面の一部の荒れ は被熱の為か	402-1804-0001-0015
29	須恵器 甗	No144	胴部破片	最大径11.0 器高(5.4)	緻密/1mm以下の小石・砂粒・ 白色粒子少量	良好	灰白(Hue10Y7/1) 断面小豆色	短頸壺の可能性も あり	402-1804-0001-0017
30	須恵器 甗	No83	頸部小破片	器高(8.4)	緻密/白色粒子・砂粒少量	良好	暗青灰 (Hue5B4/1)		402-1804-0001-0019
31	須恵器 甗	No220	胴部小破片	厚さ 0.7	緻密/黒色粒子・砂粒少量	良好	灰(HueN6/ ) 断面小豆色		402-1804-0001-0012
32	須恵器 甗	Ⅲ・Ⅳ層	小破片	厚さ 0.8	緻密/黒色粒子・砂粒少量	良好	灰(HueN6/ ) 断面小豆色		402-1804-0001-0010
33	須恵器 甗		胴部破片	厚さ 0.8	密/白色粒子・砂粒多量/長 石少量	良好	青灰 (Hue10BG6/1)		402-1804-0001-0022
34	土師器 環	No 17	口縁～体部 破片	口径 14.7 器高(3.6)	非常に粗い/ザラザラ/1mm 以下の小石・砂粒多量/角閃 石・ガラス質粒子・雲母少量	やや不良	にぶい赤褐 (Hue2.5YR5/4)	模倣環	402-1804-0001-0059
35	土師器 環	No193	口縁～体部 破片	口径 12.5 器高 4.8	やや粗い/1mm以下の小石・ 砂粒多量/角閃石・軽石・ガ ラス質粒子極少量	やや不良	橙 (Hue7.5YR6/6)		402-1804-0001-0044
36	土師器 環	No186	一部欠損	口径 14.0 器高 4.8	密/砂粒をやや多量/1mm程 度の小石・角閃石少量/軽石 極少量	良好	橙 (Hue2.5YR7/6)	模倣環	402-1804-0001-0024
37	土師器 環	7層	口縁～体部 破片	口径 13.0 器高(4.3)	緻密/砂粒少量/角閃石・ガ ラス質粒子白色粒子極少量	良好	橙 (Hue2.5YR6/8)	模倣環	402-1804-0001-0042
38	土師器 環	No 95	口縁～体部 破片	口径 11.0 器高(3.5)	密/細砂粒を多量	良好	浅黄橙 (Hue7.5YR8/6)	模倣環	402-1804-0001-0050
39	土師器 環	No201	口縁～体部 破片	口径 17.2 器高(4.2)	やや粗い/砂粒を多量ガラ ス質粒子・軽石を少量	やや不良	にぶい橙 (Hue5YR6/4)		402-1804-0001-0049
40	土師器 環	No194	口縁～体部 破片	口径 15.4 器高 4.3	密/砂粒を多量赤色粒子・白 色粒子・ガラス質粒子を極 少量	良好	橙 (Hue5YR6/6)	内斜口縁	402-1804-0001-0045
41	土師器 鉢	No222	口縁～胴下 半破片	口径 12.7 器高 6.5	密/砂粒ガラス質粒子少量	良好	浅黄橙 (Hue7.5YR8/4)		402-1804-0001-0043
42	土師器 高環	No172	坏部のみ	口径 17.0 器高(7.0)	密/砂粒多量/角閃石・白色 粒子・赤色粒子少量	良好	橙 (Hue5YR7/6)		402-1804-0001-0003
43	土師器 高環	No182	脚部破片	器高(8.4)	やや粗い/ザラザラ/砂粒・ 白色粒子やや多量/ガラス 質粒子・軽石少量	良好	橙 (Hue5YR7/6)		402-1804-0001-0055
44	土師器 壺	No170	口縁～頸部 破片	口径 15.6 器高 7.2	密/1mm以下の小石・砂粒多 量/ガラス質粒子・赤色粒子 ・軽石少量	良好	にぶい橙 (Hue7.5YR7/4)	段がしっかり残る	402-1804-0001-0038
45	土師器 壺	Ⅲ～Ⅴ層	口縁部破片	口径 17.2 器高(4.5)	密/砂粒・ガラス質粒子・白 色粒子を多量	良好	にぶい褐 (Hue7.5YR6/3)		402-1804-0001-0040
46	土師器 壺	No138	口縁部破片	口径 15.0 器高(4.5)	やや粗い/砂粒・ガラス質粒 子・軽石やや多量/1mm上 の長石少量	やや不良	橙 (Hue5YR6/6)	粗雑な作り	402-1804-0001-0041
47	土師器 壺	No115	口縁部破片	口径 10.7 器高(5.0)	やや粗い/砂粒・ガラス質粒 子・白色粒子多量	やや不良	明赤褐 (Hue2.5YR5/6)	粗雑な作り	402-1804-0001-0047
48	土師器 壺	No118	口縁～体部 破片	口径 12.4 器高(4.7)	密/砂粒を多量/角閃石・ガ ラス質粒子・白色粒子・赤色 粒子少量	良好	橙 (Hue2.5YR6/8)		402-1804-0001-0048
49	土師器 甗	No133	口縁部破片	口径 20.4 器高(6.5)	やや粗い/1mm以下の小石・ 砂粒多量/角閃石・ガラス質 粒子少量	良好	にぶい橙 (Hue5YR7/4)	内外面に粗いハケ 目	402-1804-0001-0039
50	土師器 甗	No104	口縁～肩部 破片	口径 20.0 器高 7.0	粗い/ザラザラ/1mm以下の 小石・砂粒・ガラス質粒子・ 白色粒子多量	やや不良	にぶい褐 (Hue7.5YR6/3)	甗の可能性もあり	402-1804-0001-0046
51	土師器 甗	No188	底部破片	底径 5.5 器高(1.8)	粗い/砂粒・角閃石・ガラス 質粒子・雲母多量/1～2mm程 度の小石少量	良好	にぶい橙 (Hue7.5YR6/3)		402-1804-0001-0061
52	土師器 甗	No215	底部破片	底径 9.0 器高(5.8)	密/細砂粒・ガラス質粒子・ 雲母・白色粒子多量/1mm程 度の小石少量	良好	にぶい赤褐 (Hue2.5YR4/3)		402-1804-0001-0053

第6表 五番1次遺物一覧表2

図No	遺物名	出土地点	遺存状態	法量 (cm)	胎土・材質等	焼成	色調	備考	遺物 ID
53	砥石	Ⅲ・Ⅳ層	一部欠損	長さ (3.7) 幅 (2.2) 厚さ (1.7) 重量 13.2g	泥岩	—	—		401-1804-0001-0002
54	石製品	No192	一部欠損	長さ (4.0) 厚さ 0.9 幅 2.3 重量 6.8g		—	—	未製品か	401-1804-0001-0001
55	土玉	No84	完形	径 2.3 穿孔 0.6 重量 9.9g	密/砂粒多量/軽石極少量	良好	にぶい黄褐 (Hue10YR6/4)		403-1804-0001-0004
56	土玉	No131	完形	径 2.0 穿孔 0.4 重量 7.4g	密/砂粒多量/白色粒子少量	良好	浅黄橙 (Hue10YR8/4)		403-1804-0001-0005
57	土玉	No141	一部欠損	径 1.9 穿孔 0.3 重量 5.5g	密/砂粒多量/白色粒子少量	良好	褐灰 (Hue10YR6/1)		403-1804-0001-0007
58	土玉		完形	径 2.1 穿孔 0.4 重量 8.1g	密/白色粒子多量	良好	にぶい橙 (Hue7.5YR7/3)		403-1804-0001-0009
59	土玉	Ⅲ・Ⅳ層	一部欠損	径 2.2 穿孔 0.6 重量 7.0g	やや粗い/砂粒多量/白色粒子・赤色粒子少量	良好	浅黄橙 (Hue7.5YR8/6)		403-1804-0001-0006
60	土錘	Ⅳ・Ⅴ層	大きく欠損	長さ (2.7) 径 *19 重量 —	密/白色粒子・ガラス粒子極少量	良好	黒オリーブ (Hue7.5YR3/1)		403-1804-0001-0001
61	土錘	一括	大きく欠損	長さ (3.0) 径 *3.6 重量 —	粗い/ザラザラ/ガラス質粒子・軽石多量	良好	灰白 (Hue7.5YR7/1)		403-1804-0001-0012
62	石鏃	一括	完形	長さ 2.7 幅 1.9 厚さ 0.4 重量 1.8g	安山岩	—	—	木葉型	201-1804-0001-0001
63	石鏃	7層	一部欠損	長さ (2.8) 幅 1.6 厚さ 0.5 重量 2.5g	石	—	—		201-1804-0001-0004
64	叩石	一括	完形	長さ 11.9 幅 4.5 厚さ 3.4 重量 486.2g	石	—	—	全面に磨痕	201-1804-0001-0002
65	叩石	No31	完形	長さ 6.5 幅 4.5 厚さ 2.0 重量 59.0g	石	—	—		201-1804-0001-0003
66	磨石	Ⅳ層	完形	長さ 11.5 幅 5.9 厚さ 4.8 重量 258.5g	デイサイト	—	—		601-1804-0001-0003
67	磨石	Ⅲ-Ⅳ層	完形	長さ 6.9 幅 4.3 厚さ 3.6 重量 55.8g	デイサイト	—	—		601-1804-0001-0002
68	磨石	No37	欠損	長さ 6.4 幅 8.0 厚さ 2.6 重量 87.0g	デイサイト	—	—		661-1804-0001-0001
69	青磁碗	D-1G Ⅲ層	破片	—	同安窯系中国	—	—	形式 I /12c 中~13c 末	町青101
70	端反皿	一括	破片	—	中国	—	—	形式 III B-1	町染082
71	播鉢	一括	破片	—	在地	—	—		町鉢312
72	志野皿	Ⅱ層	破片	底径 *7.0	瀬戸美濃	—	—	17c 以前か	町皿231
73	絵画土器	表面採集	小破片	—	緻密/細砂粒含む	良好	浅黄橙 (Hue2.5YR7/3)	文様は不明 弥生末~古墳初	

第7表 五番1次遺物一覧表3

## 第IV章 五番遺跡第2次調査

### 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成2年12月14日、開発者谷川武司氏から騎西町教育委員会に宛て、大字中種足字五番961-1、961-3における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は12月25日試掘調査を実施した結果、建設予定地から焼土や土師器片が多量に出土したため埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。

平成3年1月28日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

調査協力員

石井寿美子 石井のゑ 岡田金之助 栗原まさ子

鈴木サク 田口島蔵 平野とみ 福島利夫

細野とみ 山口保雄 吉田美津 渡辺サヨ

文化庁通知 2委保記第5-607号

平成3年4月3日

調査期間 平成3年2月12日～3月14日

(調査の経過)

建設予定地に18m×17mの調査区を設定し、人力により表土を掘り下げた。確認面(ローム層)まで1.5mと深く、排土の持ち上げなど多大な労力を要した。途中湧水したため、西と北に側溝を設け水中ポンプにより排水した。黒褐色～黒色土中で土師器片が散布していたので分布図を作成し・写真撮影をした。調査区中央で甕の集中出土があり1/10の図面作成した。遺構はピットのみであった。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は中種足に所在する基準点から計測し使用した。

### 第2節 遺構と遺物

土壌は確認されなかった。遺物は古代までは、古墳時代から奈良平安時代の土師器・須恵器を主とし、縄文・弥生時代の土器片も出土している。

**井戸** 調査区南で確認されたが掘り込み面が浅く近世以降と思われたので図化しなかった。

**ピット** 調査区全面に分布するが、構築物と判断できるものは確認できなかった。

**遺物集中** 調査区のほぼ中央で、復元できる土師器の甕が集中して出土した(1~14)。

○出土遺物

1・2は壺、14は甑であるがその他は全て甕である。6・7のように胴部の球形が強いものも、11や12のようにやや長胴化の傾向が始まったものもあるが、両者の間には余り時間差はなく、同一時期に破棄されたものと考えている。

※遺構確認面であるローム層の上層には茶褐色土の堆積はなく、遺構構築前に一度削平を受けているものと思われた。

**遺構外の出土遺物**

須恵器坏(15・16)と須恵器壺(20)が出土しているがいずれも小破片で詳細は不明である。6世紀中頃のものであろう。

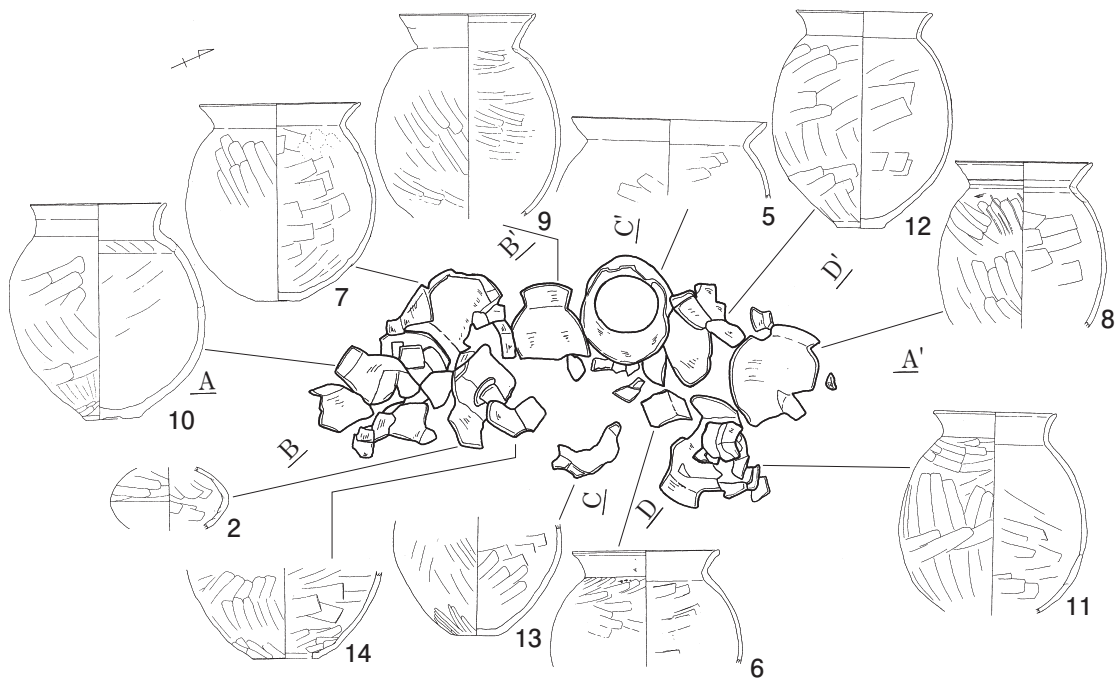
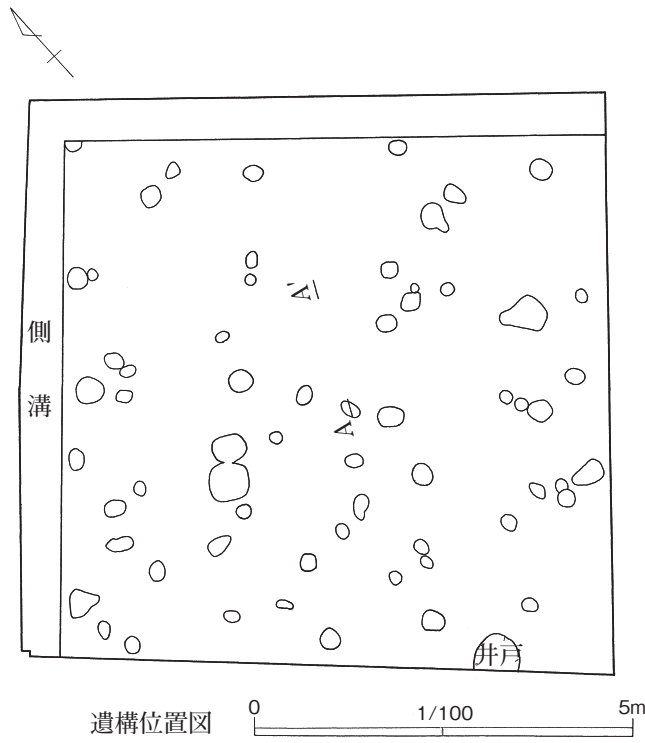
この他に古墳時代中頃から後半にかけての坏や甕類、砥石(24)が出土している。

さらに奈良時代の遺物も須恵器坏蓋の破片(25)、内面に暗文を施した碗(26)などがある。

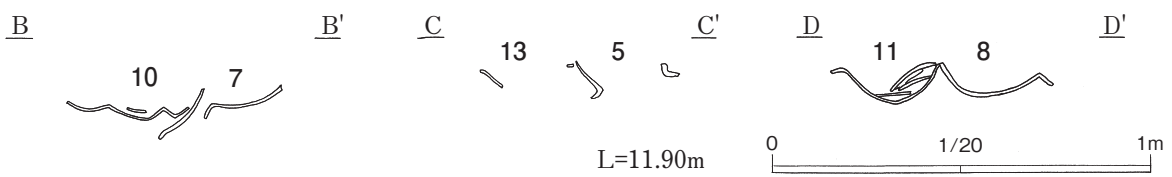
27は弥生時代中期の壺の胴部破片で、縄文施文後鋭い沈線で平行する文様を描く。

中世以降は龍泉窯系の青磁碗(28)や常滑の甕(29)片口鉢(30)、瀬戸美濃の卸皿(31)香炉(32)、在地産片口鉢(36・39)・播鉢(37・38・41)、砥石(42)などがある。

また図化しなかったが後期の縄文土器片が出土している。

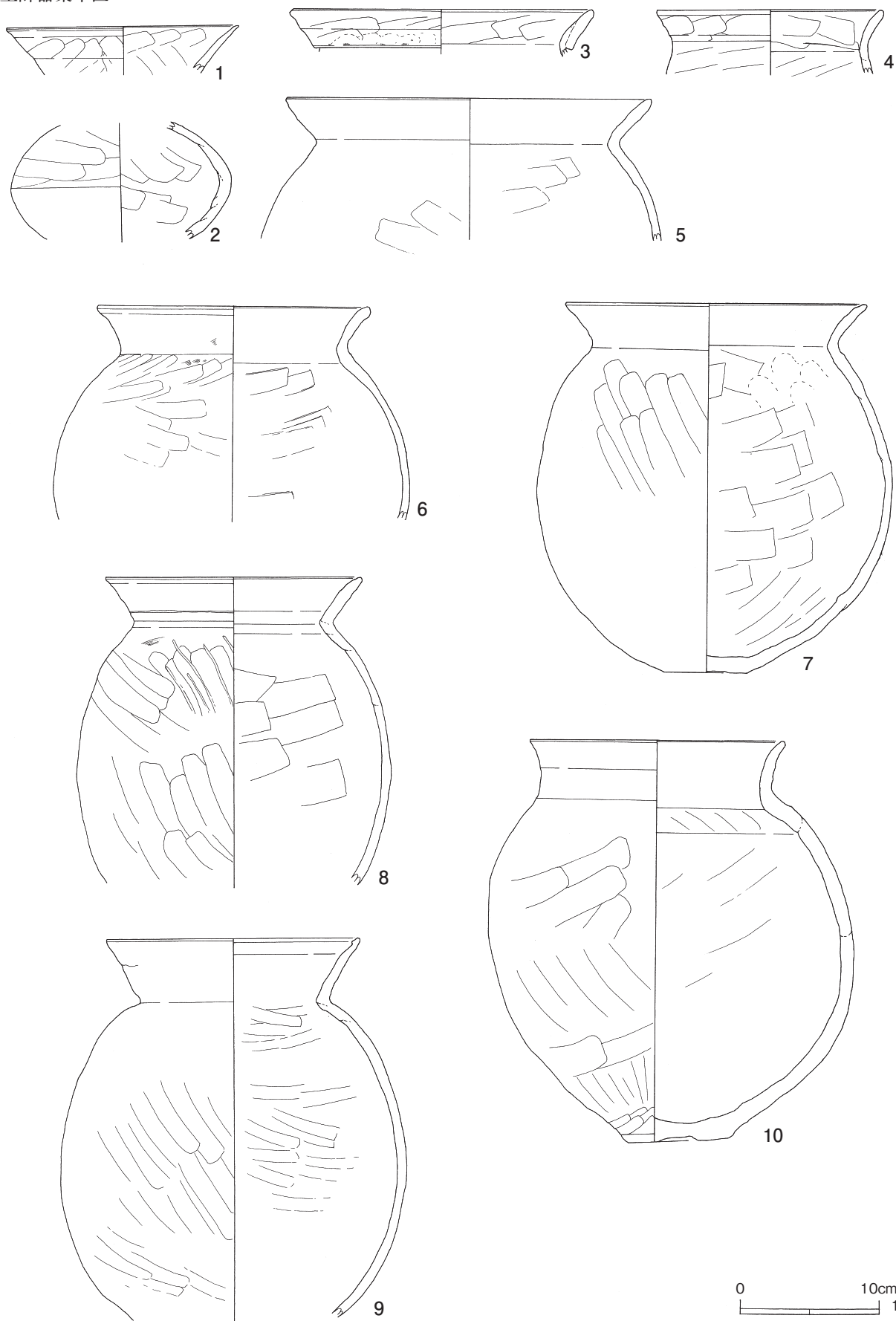


土師器集中



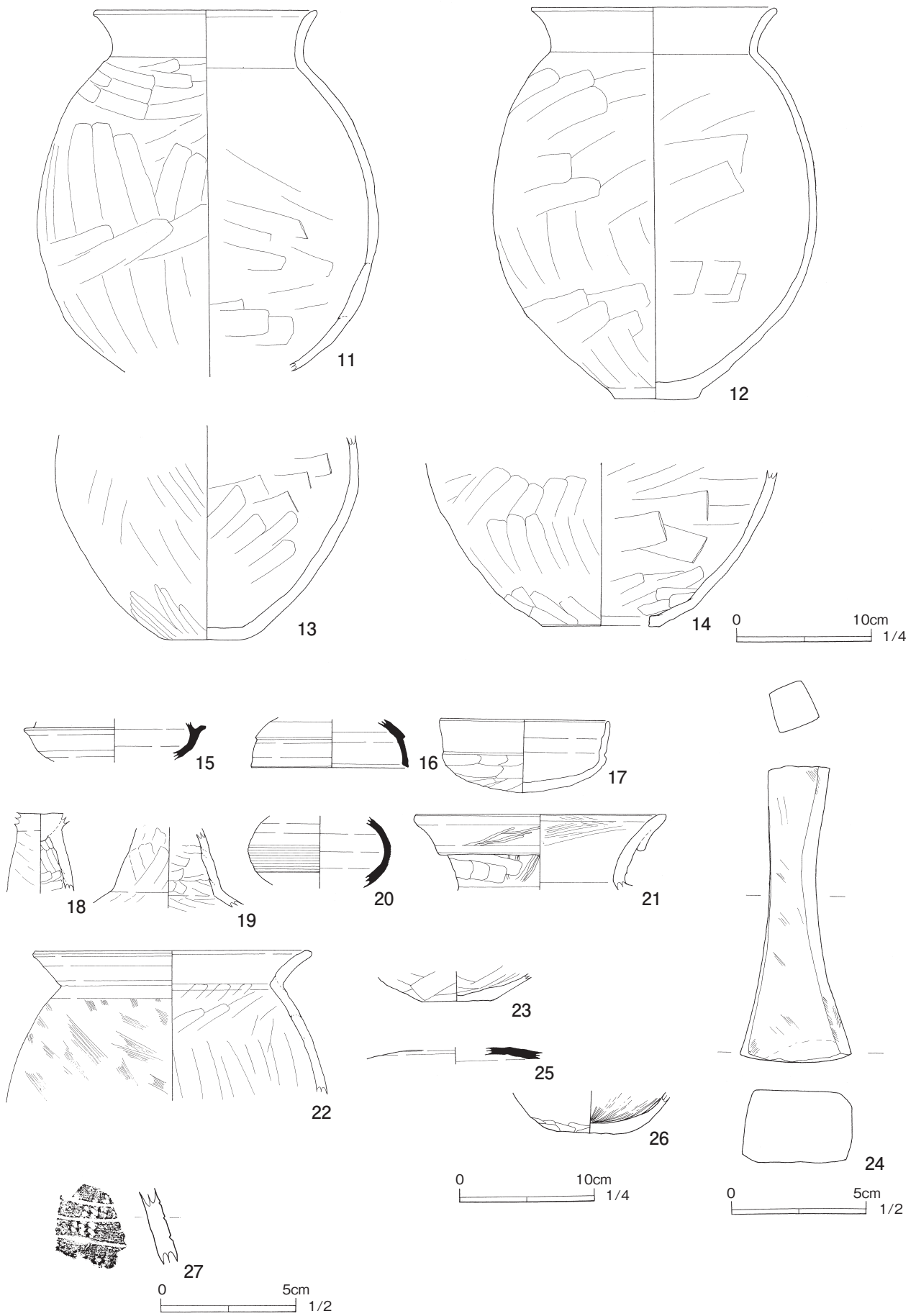
第21図 五番2次遺構位置及び土師器集中

土師器集中区

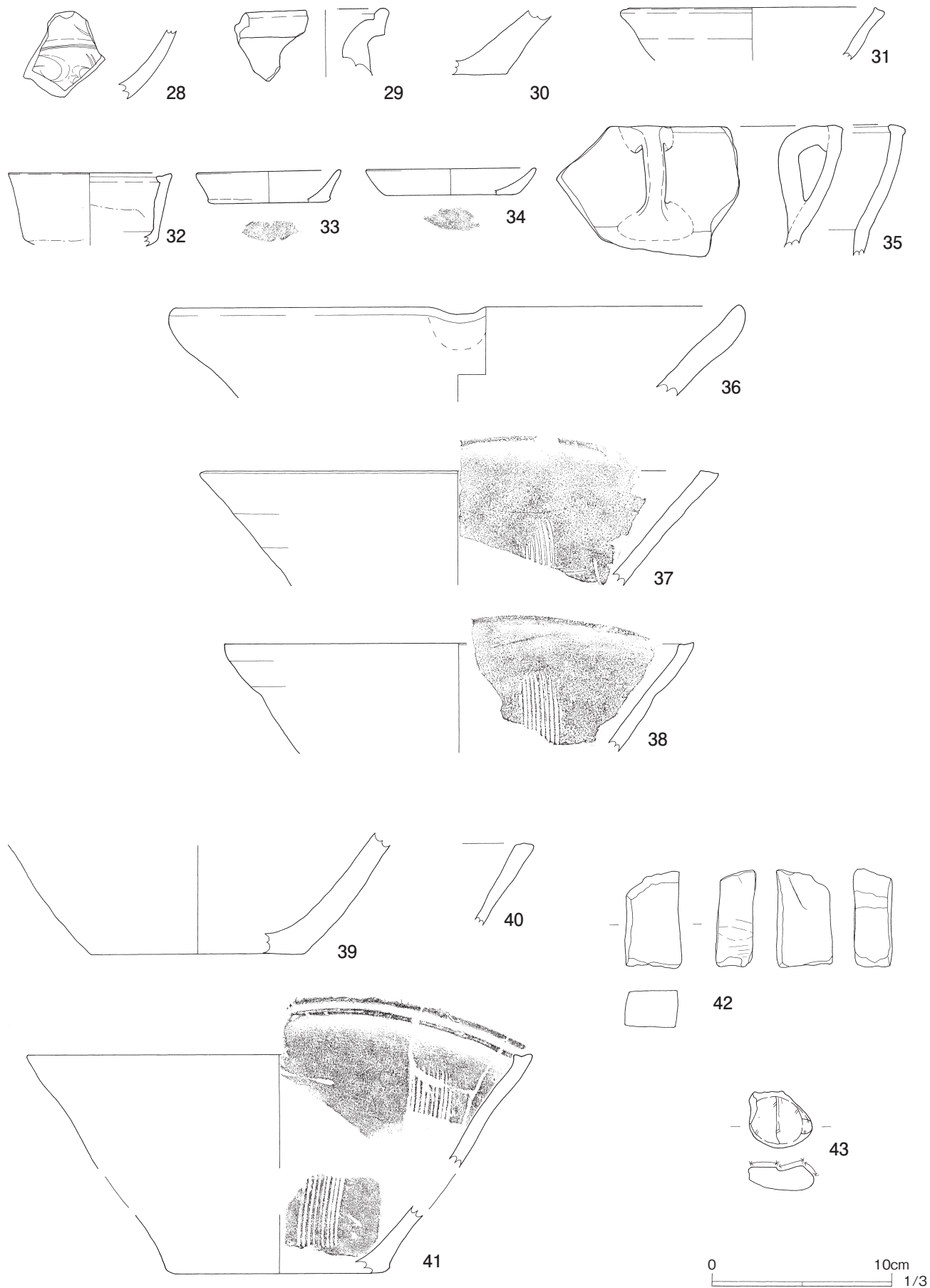


第22図 五番2次出土遺物1





第23図 五番2次出土遺物2



第24図 五番2次出土遺物3

図No	遺物名	出土地点	遺存状態	法量 (cm)	胎土・材質等	焼成	色調	備考	遺物 ID
1	土師器 高坏	No301	坏部破片	口径 16.4 器高(3.4)	密/砂粒多量/角閃石・軽石・ ガラス質粒子少量	良好	浅黄橙 (Hue7.5YR8/4)	丁寧に整形	402-1804- 0002-0022
2	土師器 壺	No 163・ 219他	胴部のみ	最大径 8.2 器高(15.4)	密/砂粒・白色粒子若干	良好	にぶい黄褐 (Hue10YR5/4)	坩の胴部か	402-1804- 0002-0017
3	土師器 壺	No163	口縁部のみ	口径 23.4 器高(3.5)	粗い/砂粒・角閃石多量1mm 以下の小石・軽石・赤色粒子 少量	やや不良	にぶい黄褐 (Hue10YR5/3)		402-1804- 0002-0020
4	土師器 甕	No174	口縁～肩部	口径 16.0 器高(4.5)	やや粗い/砂粒・雲母多量/ 角閃石・軽石・白色粒子少量	やや不良	にぶい黄褐 (Hue10YR6/4)	器面が荒れている ため調整は不明	102-1804- 0002-0021
5	土師器 甕	No228	口縁部～胴 上半部	口径 26.0 器高(10.0)	粗い/1～2mm程度の小石多 量	良好	明褐灰 (Hue7.5YR7/2)	器面が荒れている ため調整は不明	402-1804- 0002-0007
6	土師器 甕	No 148・ 188・227 他	口縁部～胴 部下半	口径 19.4 器高(15.5)	密/1mm程度の小石・砂粒多 量/雲母少量	良好	明褐灰 (Hue5YR7/2)	内外面ともハケ目 をナゲ消している	402-1804- 0002-0003
7	土師器 甕	No 144・ 193・301 他	胴部一部欠 損	口径 21.5 底径 6.0 器高 26.0	やや粗い/1mm程度の長石含 む小石・砂粒・雲母多量	良好	にぶい橙 (Hue5YR7/3)		402-1804- 0002-0005
8	土師器 甕	No300	口縁～胴下 半部	口径 18.4 器高(21.8)	やや粗い/砂粒・ガラス質粒 子・雲母多量/1mm程度の小 石・角閃石少量	良好	褐灰 (Hue10YR4/1)		402-1804- 0002-0012
9	土師器 甕	No 154・ 168・198 他	口縁部～胴 部下半	口径 18.0 器高(27.3)	密/1～5mm程度の小石多量	良好	褐灰 (Hue7.5YR4/2)		402-1804- 0002-0004
10	土師器 甕	No 161・ 172・225 他	一部欠損	口径 18.2 底径 7.5 器高 28.4	やや粗い/砂粒・雲母多量/1 mm程度の小石少量	良好	黒褐 (Hue10YR3/2)	器面が荒れている ため調整の詳細は 不明	402-1804- 0002-0011
11	土師器 甕	No 154・ 191・301 他	口縁部～胴 部下半	口径 16.5 器高(26.2)	密/1mm程度の小石・砂粒・雲 母若干	良好	淡赤褐 (Hue2.5YR7/4)		402-1804- 0002-0006
12	土師器 甕	No 147・ 229他	口縁部一部 欠損	口径 18.0 底径 6.4 器高 28.6	粗い/ザラザラ/1mm程度の 小石・砂粒・雲母を多量	良好	にぶい赤褐 (Hue5YR5/3)		402-1804- 0002-0002
13	土師器 甕	No 277・ 301他	胴下半～底 部	底径 50. 器高(15.1)	粗い/1mm程度の小石・砂粒・ 雲母を多量/	やや不良	灰褐 (Hue7.5YR4/2)		402-1804- 0002-0015
14	土師器 甕	No182他	胴下半～底 部	底径 8.6 器高(12.0)	やや粗い/砂粒・白色粒子多 量/1mm程度の小石・雲母少 量	良好	にぶい褐 (Hue7.5YR5/3)		402-1804- 0002-0016
15	須恵器 坏身	No73	体部破片	器高 3.0	やや粗い/砂粒を多量	やや不良	灰白 (Hue2.5GY8/1)	極小破片のため注 意	402-1804- 0002-0009
16	須恵器 坏蓋	No86	口縁～体部	口径 11.5 器高(3.5)	緻密/砂粒・白色粒子を少量	良好	灰 (Hue10Y6/1)	極小破片のため注 意	402-1804- 0002-0010
17	土師器 坏	No92他	1/2残存	口径 12.6 器高 5.5	密/砂粒・白色粒子若干	良好	橙 (Hue2.5YR6/8)		402-1804- 0002-0001
18	土師器 高坏	No1	脚部のみ	器高(6.8)	やや粗い/1mm以下の小石・ 砂粒多量/角閃石・軽石・ガ ラス質粒子極少量		にぶい橙 (Hue7.5YR7/3)		402-1804- 0002-0018
19	土師器 高坏	No48	脚部～裾部	器高(5.9)	やや粗い/砂粒・ガラス質粒 子・軽石・白色粒子多量	やや不良	橙 (Hue5YR7/6)		402-1804- 0002-0019
20	須恵器 壺	No69	胴部小破片	胴最大径 10.5	緻密/砂粒・黒色粒子少量	やや不良	灰白 (HueN8/ )	胴部にカキ目	402-1804- 0002-0008
21	土師器 壺	No 129・ 135・199 他	口縁部破片	口径 18.4 器高(5.6)	粗い/1mm以下の小石・砂粒 多量	良好	橙 (Hue5YR6/6)	ヘラミガキが残る	402-1804- 0002-0014
22	土師器 甕	No90・107 ・124他	口縁部～胴 上半部	口径 20.4 器高(11.0)	密/砂粒・白色粒子を多量/ ガラス質粒子・軽石少量	良好	灰褐 (Hue7.5YR5/2)	外面にハケ目が残 る。	402-1804- 0002-0013
23	土師器 甕又は 壺	No89	底部破片	底径 50. 器高(1.9)	密/砂粒・ガラス質粒子少量	良好	明赤褐 (Hue2.5YR5/6)		402-1804- 0002-0023
24	砥石	No 17	完形	長さ 10.9 上幅 2.2 下幅 4.15 重量 101.7g	泥岩	—	—	酸化のため赤化	401-1804- 0002-0001
25	須恵器 蓋	3層	天井部小破 片		密/砂粒・白色粒子少量	良好	青灰 (Hue5B5/1)	つまみ、かえりの有 無は不明	502-1804- 0002-0001
26	土師器 埴	No120	底部付近	底径 4.8 器高(2.8)	密/砂粒・ガラス質粒子多く /角閃石・赤色粒子少量	やや不良	にぶい橙 (Hue2.5YR6/4)	内面に暗文あり	502-1804- 0002-0002
27	弥生土 器	一括	小破片	—	密/白色粒子多量、白色針状 物質	良好	橙 (Hue5YR6/6)		302-1804- 0002-0001

第8表 五番2次遺物一覧表1

( )は残存値、\*は不確定な推定復元値

図No.	遺物名	出土地点	産地(材質)	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	形式	年代	遺物 ID	備考
28	青磁碗	龍泉窯系中国	No31	—	—	—	I-2	12c中~13c末	町青100	
29	甕	常滑	No82	—	—	—	5		町袋110	
30	片口鉢	常滑	No37	—	—	—	II	1250~1550カ	町鉢308	
31	卸皿	瀬戸美濃	No9	13.6	—	—	古中I	13c末~14c初	町皿230	
32	香炉	瀬戸美濃	シ-90-11 2T	*9.0	—	—		15c前	町香018	
33	かわらけ	在地	3層	*8.0	*6.8	1.8			町 K300	
34	かわらけ	在地	3層	*9.4	*7.4	1.5			町 K301	
35	土鍋	在地	シ-90-11 2T	—	—	—			町 D042	
36	片口鉢	在地	No26	*32.0	—	—		13c後	町鉢304	
37	播鉢	在地	一括	*26.0	—	—			町鉢305	
38	播鉢	在地	一括	*28.8	—	—			町鉢306	
39	片口鉢	在地	一括	—	*12.0	—			町鉢307	須恵質
40	播鉢	在地	一括	—	—	—			町鉢309	
41	播鉢	在地	一括・5B・シ-90-11 2T(上半)、5B(下半)	*28.0	—	—			町鉢310・311	
42	砥石	石	No81	(5.4)	3.0	2.0			町石042	
43	磨石	デイサイト	3層	3.1	3.5	1.4				

第9表 五番2次遺物一覧表2



調査風景



遺物出土状況

# 第V章 種垂城跡第6次調査

## 第1節 調査の概要

(調査に至る経過)

平成2年8月29日、開発者梅沢佳寿枝氏から騎西町教育委員会に宛て、大字上種足字三番300-1における住宅の建設にあたり「埋蔵文化財の所在及び

取り扱いについて」の照会があった。町教育委員会は9月12～18日試掘調査を実施した結果、建設予定地から土師器片が出土したため、埋蔵文化財が所在するものと回答した。開発者と協議の結果、記録保存の措置を講じるための発掘調査を実施することとなった。



第25図 種垂城跡6次調査区の周辺

平成2年11月22日付けで開発者から発掘調査の依頼書が提出された。発掘調査は、騎西町教育委員会が実施することとし、教育総務課主事嶋村英之が担当した。

#### 調査協力員

石井寿美子 石井のゑ 岡田金之助 栗原まさ子  
清水いね子 鈴木サク 関根とみ 平野とみ  
福島利夫 細野とみ 山口保雄 吉田美津

文化庁通知 2委保記第5-6674号

平成3年4月3日

調査期間 平成2年12月17日～

平成3年2月13日

#### (調査の経過)

建設予定地に12m×10mの調査区を設定し、早々に湧水が予想されたので東・西・南に側溝を設け水中ポンプにより排水した。その後人力により表土を掘り下げた。40cm下の暗灰褐色土を遺構確認面とし堀の調査を行った。以下も遺構の存在が予想されたため3m方眼のグリッドを設定しトレンチを併用しつつ掘り下げた。北側を拡張し黒色土を遺構確認面とし溝を検出し調査した。また、北東コーナーで遺物(土師器)の集中が見られ分布図を作成した。調査は関東ローム層まで掘り下げることができなかった。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は中種足に所在する基準点から計測し使用した。

#### (周辺の調査)

西北に位置する種垂城址公園内の試掘調査では古墳時代前期の壺が、圃場整備に先立ち道路を挟んだ南を試掘調査した際、南比企窯跡群産須恵器蓋片(8～9世紀)が出土した。

## 第2節 遺構と遺物

上位確認面で堀を1条、下位確認面で溝を5条検出した。

遺物は古墳時代の土師器、奈良平安時代の須恵器、

弥生時代の磨製石鏃等が出土している。

**堀** 堀はL字形に屈曲し浅い。覆土は暗灰褐色土で刷毛目(肥前)が出土しており18c以降のものと思われる。

**溝** 溝は走行方向が同一でなく数時期に亘るもので

1号溝は掘り込みがしっかりしている。確認面より上位出土であるが常滑甕片や青磁碗片が出土しており中世以降の所産と思われる。

#### 遺構外の出土遺物

黒色土層の遺物集中地点から復元可能な土師器甕(1)が出土した。1・2について胎土や調整などで類似点が多く同一個体の可能性が高いが、接合箇所の確認が出来なかったため、ここでは別個体とした。古墳時代中期相当である。

奈良平安時代の須恵器片(3～14)および磨製石鏃が第3層黒灰褐色土から出土している。

3～6までは8世紀中頃、7～10までは9世紀中頃の坏で全て南比企窯跡群産である。11は小破片のため詳細が不明であるが9世紀前後のもので産地は不明、12は10世紀前後のもので南比企窯跡群産である。13、14は破片のため詳細は不明であるが奈良時代以降と考えた。13は産地不明、14は南比企窯跡群産である。

また時期不明であるが土錘(15)が出土している。16は縄文時代の石鏃、17は弥生時代中期の磨製石鏃である。

磨製石鏃は千枚岩製で薄く左脚をやや欠損している。ほぼ二等辺三角形で両側縁は直線で下辺がやや抉れる。全面良く磨かれており周縁は鋭利に成形される。下方に両側より1mmほどの穿孔を施している。

18～20は中世以降のものと思われるが、デイサイト製の磨石でいずれも面を形成するほど良く使用されている。

図化しなかったがほかに埴輪片数点出土している。



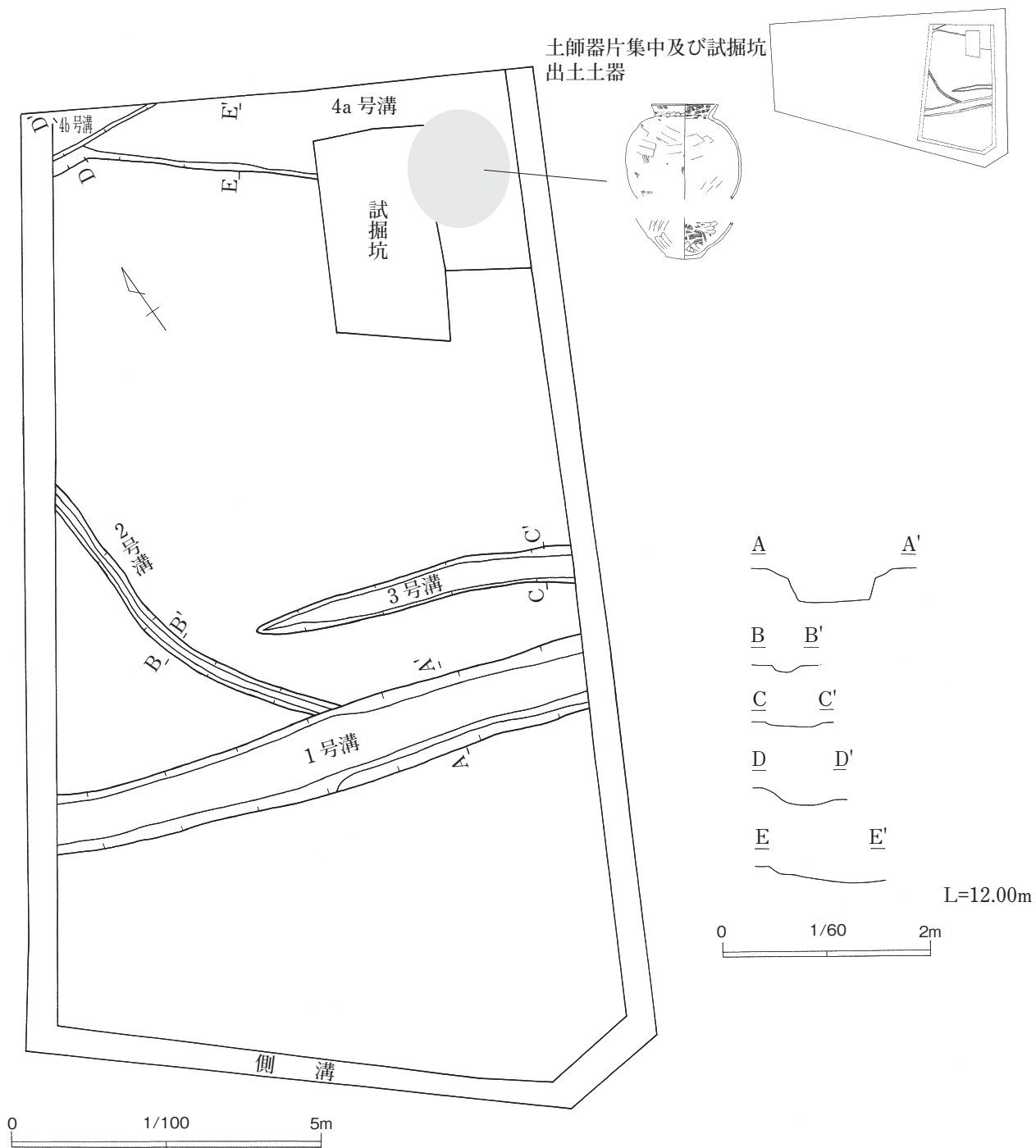
第26図 種垂城跡6次遺構（上層）堀



上層 堀 完掘



下層 溝 完掘



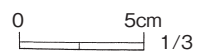
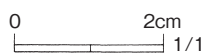
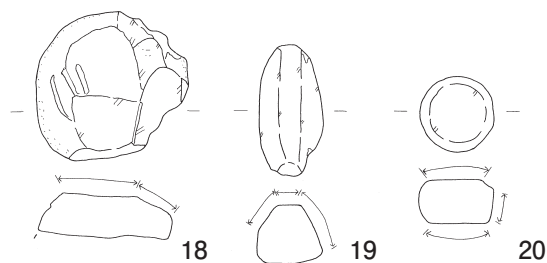
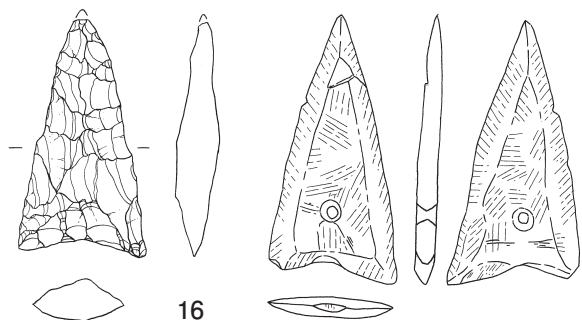
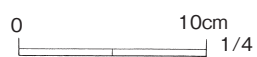
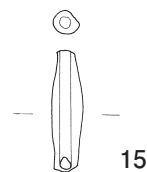
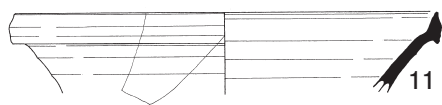
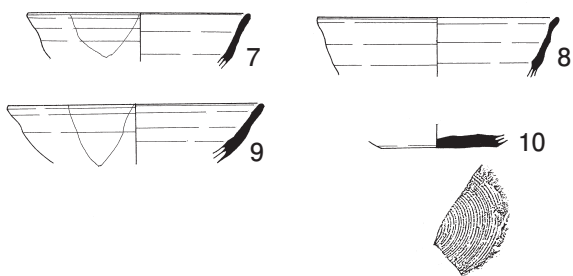
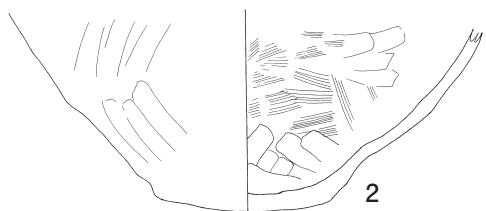
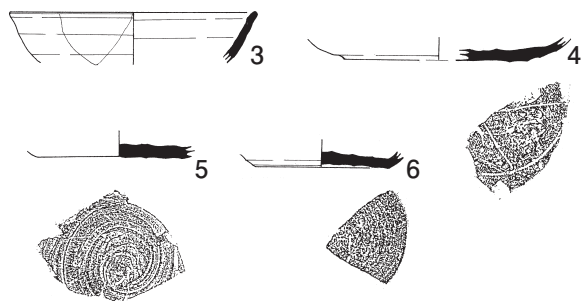
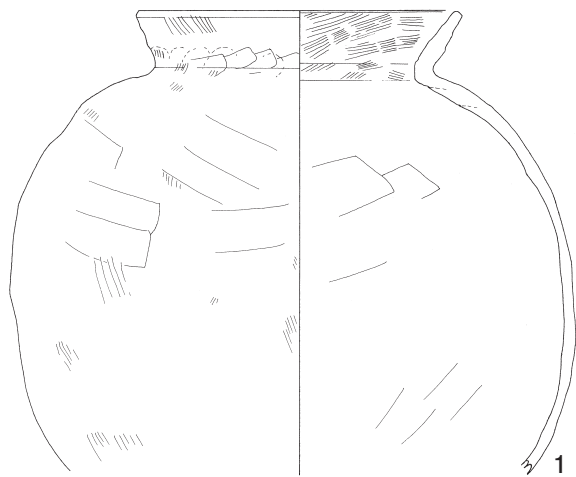
第27図 種垂城跡6次遺構（下層）溝

( )は残存値、☆はセクション図計測値

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号堀	なし	L字形	緩やか	幅(650)	12	暗灰褐色	陶器(刷毛目)	18C以降	
1号溝	2溝		ほぼ直上	幅118	34	暗灰褐色	確認面上位で常滑・青磁片	中世か	
2号溝	1溝		緩やか	幅21	6	不明	ロームの2次堆積あり	中近世	
3号溝	なし		緩やか	幅55	4	不明	ロームの2次堆積あり	中近世	
4a号溝	4b溝		緩やか	☆(84)	17	不明		中近世	
4b号溝	4a溝		緩やか	(119)	15	不明	ロームの2次堆積あり	中近世	

第10表 種垂城跡6次遺構一覧表





第28図 種垂城跡6次出土遺物

( )は残存値

図No.	遺物名	出土地点	遺存状態	法量 (cm)	胎土・含有物・材質等	焼成	色調	備考	遺物 ID
1	土師器甕	No26・79・102他・遺物集中地点	底部欠損	口径 17.0 器高 (24.5)	やや粗い/ザラザラ/1mm程度の小石・砂粒多量	良好	橙 (Hue5Yr6/8)	内外面にハケ目を施す	402-1604-0006-0002
2	土師器甕	No81他・遺物集中地点・3層	底部のみ	底径 9.6 器高 (10.8)	やや粗い/ザラザラ/2mm程度の小石・砂粒多量	良好	淡赤橙 (Hue2.5YR7/4)	外面に削り、内面に粗いハケ目を残す	402-1604-0006-0001
3	須恵器環	No69	口縁部破片	口径13.0 器高 (2.8)	密/1mm以下の小石・細砂粒・白色針状物質若干	良好	青灰 (Hue5B6/1)		502-1604-0006-0001
4	須恵器環	No60	底部破片	底径 9.7	密/1mm以下の小石を多量、白色針状物質少量	良好	灰褐 (Hue5YR4/2)	底部回転ヘラ削り、ヘラ記号あり	502-1604-0006-0008
5	須恵器環	No25	底部破片	不明	密/1mm以下の小石・細砂粒を多量、白色針状物質を少量	良好	青灰 (Hue5PB6/1)	底部回転ヘラ削り	502-1604-0006-0002
6	須恵器環	No23	底部破片	底径 7.0	密/1mm以下の小石・細砂粒・白色針状物質若干	良好	青灰 (Hue5B5/1)	底部回転ヘラ削り	502-1604-0006-0003
7	須恵器環	No16	口縁部破片	口径 11.9 器高 2.4	密・細砂粒・白色針状物質少量	良好	オリーブ灰 (5GY6/1)		502-1604-0006-0005
8	須恵器環	No54	口縁部破片	口径 12.8 器高 (3.0)	密/1mm以下の小石・細砂粒・白色針状物質少量	良好	緑灰 (10G5/1)		502-1604-0006-0004
9	須恵器環	No35	口縁部破片	口径 13.5 器高 (3.1)	密/1mm以下の小石・細砂粒・白色針状物質少量	良好	灰 (Hue10Y6/1)		502-1604-0006-0006
10	須恵器環	No21	底部破片	底径 6.0	密/2mm以下の小石・細砂粒・白色針状物質少量	良好	暗青灰 (Hue10BG4/1)		502-1604-0006-0007
11	須恵器壺	No15	口縁部破片	口径 22.2 器高 (4.2)	密/1mm程度の小石・砂粒・ガラス質粒子若干	良好	暗灰 (HueN3/ )		502-1604-0006-0009
12	須恵器壺	No28	底部破片	底径 11.7	密/1mm程度の小石・砂粒・白色針状物質を少量	良好	緑灰 (10G6/1)		502-1604-0006-0010
13	須恵器甕	No53	胴部破片	厚さ 1.0	密/1mm以下の小石・細砂粒を多量	良好	紫灰 (Hue5P6/1)	外面に叩き目	502-1604-0006-0011
14	須恵器甕	3 溝	胴部破片	厚さ 0.7	密・砂粒・白色粒子・白色針状物質少量	良好	灰白 (HueN7/ )	外面に叩き目	502-1604-0006-0012
15	土錘	No22	完形	長さ 3.2 口径 0.7	密/砂粒多量	良好	浅黄橙 (Hue7.5YR8/3)		503-1064-0006-0001
16	石鏃	No77	完形	長さ 3.1 幅 1.8 厚さ 0.7 重量 2.0g	チャート	—	—		201-1604-0006-0001
17	磨製石鏃	3層 No5	ほぼ完形	長さ 3.0 幅 1.7 厚さ 0.25 重量 1.5g	千枚岩	—	—		301-1604-0006-0001
18	磨石	No19	一部欠損	長さ 6.9 幅 6.1 厚さ 1.7 重量 40.2g	デイサイト	—	—		601-1604-0006-0002
19	磨石	2層	完形	長さ 5.2 幅 2.6 厚さ 2.3 重量 12.2g	デイサイト	—	—		601-1604-0006-0001
20	磨石	No70	完形	長さ 3.0 幅 3.0 厚さ 2.8 重量 7.6g	デイサイト	—	—		601-1604-0006-0003

第11表 種垂城跡6次遺物一覧表

## 第VI章 まとめ

### 第1節 三番遺跡第1次調査

今回の調査では古墳時代及び中近世の遺構遺物が確認された。

○古墳時代 4号溝は覆土及び形態より、方形周溝墓の可能性を考えることができる。小沼耕地遺跡の周溝墓と同時期であるなら古墳時代初頭に位置づけられる。

また、6世紀代の埴輪片が出土しており、北東(小沼耕地1次・三番遺跡3次)に展開する種足古墳群が当地点にも広がっていたものと思われる。

○中世 4号土壇の在地の甕は14世紀代のもので蔵骨器と思われ、当地点が北側の試掘調査で確認された配石とともに14～15世紀代に墓域の一角を成すものであろう。ほかに、13～15世紀代の青磁や在地産鉢の出土から13世紀代の伊賀氏支配、15世紀の日英上人による種垂講演御堂の経営に関わる遺構の存在が予想される。

○近世 1～3号溝、1号堀が17～18世紀代の所産と思われ、16世紀代の種垂城廢城後に当地点に耕地に伴う灌漑施設及び居住地があったものであろう。

### 第2節 五番遺跡第1・2次調査

出土遺物より縄文時代後・晩期、弥生時代中期から古墳・奈良平安時代にかけて断続的に集落が営まれていたものと思われる。なかでも古墳時代中～後期のものが多い。

○縄文時代 晩期有茎石鏃で、茎部にタール状のものが付着するのはいずれも町内唯一である。

○弥生時代 刻書土器は、絵画的なものを描いたものと思われ、書き順から舟ではなく黥面のようなものと思われる。また整形技法が在地産と言うより西日本の模倣・近江系という教示も得ている。細片ではあるが関東でも数少ない事例として意義あるものである。

○古墳時代

ローム層上で検出した灰色粘土ブロック(1次調査)の性格については焼土ブロックの存在からカマドに類するものも考えられるが、坏が正位で設置さ

れ管玉が出土するなど祭祀的な施設を連想させ、特殊な空間であったものと思われる。

甕集中出土(2次調査)は竪穴住居跡などの落込の存在を想定できるが明確ではない。

1次・2次調査区とも、地山の堆積はローム層上面にソフトローム・茶褐色土の堆積はなくプライマリーではない。古墳時代後期の土師器が良好な状態で出土することから後期以前に1・2次調査区を跨いで大規模な削平が行われたものと思われる。埴輪片の出土は古墳の存在を暗示し、その造成に伴うものの可能性を指摘しておきたい。

○奈良時代

2次調査区で当該期の土器が出土しているが破片2点である。当遺跡南端の3・4次調査区周辺で奈良平安時代須恵器片の出土があった。遺跡内での該期の遺構分布の把握が今後の課題である。

### 第3節 種垂城跡第6次調査

検出された堀や溝については所属時期が明確ではないが、出土遺物から中世から近世に構築されたものである。

他に遺構に伴わないが、縄文時代の石鏃や弥生時代中期の磨製石鏃、古墳時代の土師器甕、奈良平安時代の須恵器片など各時代に生活の痕跡が認められる。

特に磨製石鏃は町内でも数少ない弥生期の遺物であり五番遺跡の土器片と併せて種足地区に弥生時代の集落が営まれていた可能性を提示するものである。

## 参考文献

### 古墳・古代

埼玉県立歴史資料館 1987『埼玉の古代窯業調査報告書』

鳩山町教育委員会 1990『鳩山窯跡群Ⅱ』

田辺昭三 1981『須恵器大成』

### 中近世

大橋 康二 1984「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館

小野 正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会

小野 正敏 2000「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会

騎西町遺跡調査会 1996『騎西城武家屋敷跡 第7次発掘調査報告』騎西町遺跡調査会報告書第1集

騎西町遺跡調査会 1997『騎西城武家屋敷跡妙光寺第1・2次発掘調査報告書』騎西町遺跡調査会報告書第2集

騎西町遺跡調査会 2009『騎西城武家屋敷跡第22・24次発掘調査報告書』騎西町遺跡調査会報告書第4集

九州近世陶磁学会 2001「国内出土の肥前陶磁」東日本の流通をさぐる 九州近世陶磁学会

小林 義典ほか 2002「小田原城三の丸 藩校集成館跡第Ⅲ・第Ⅳ地点」小田原市文化財調査報告書第100集  
小田原市教育委員会

中野 晴久 1994「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集

中野 晴久 2005「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集

藤澤 良祐 1987「本業焼の研究（1）」研究紀要Ⅵ 瀬戸市歴史民俗資料館

藤澤 良祐 1988「本業焼の研究（2）」研究紀要Ⅶ 瀬戸市歴史民俗資料館

藤澤 良祐 1989「本業焼の研究（3）」研究紀要Ⅷ 瀬戸市歴史民俗資料館

藤澤 良祐 2002「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

藤澤 良祐 2008「中世瀬戸窯の編年」

### 他

埼玉県教育委員会『埼玉の遺跡マップ』埼玉県埋蔵文化財インフォメーションシステム

騎西町教育委員会 2001『騎西町史』考古資料編1

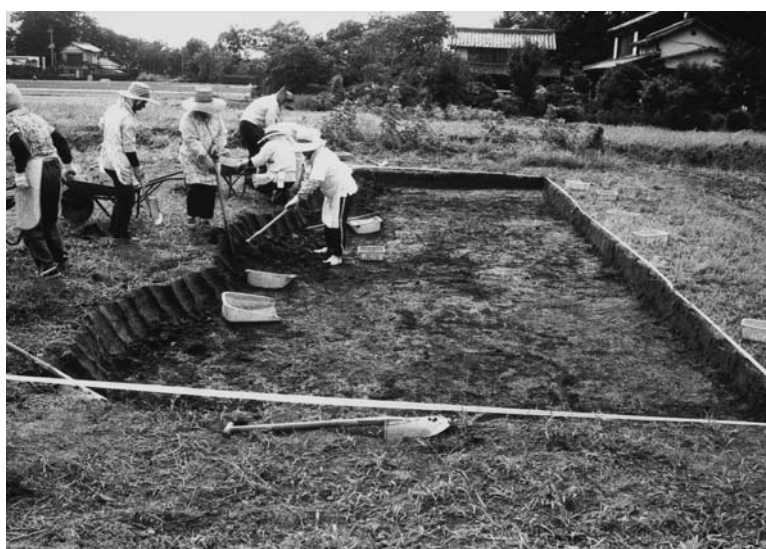
騎西町教育委員会 1999『騎西町史』考古資料編2

騎西町教育委員会 2005『騎西町史』通史編





調査前風景



調査風景



板碑 (No.29) 出土



1号堀 完掘



1～3号溝 完掘



完掘（東から）



5・6号溝 完掘

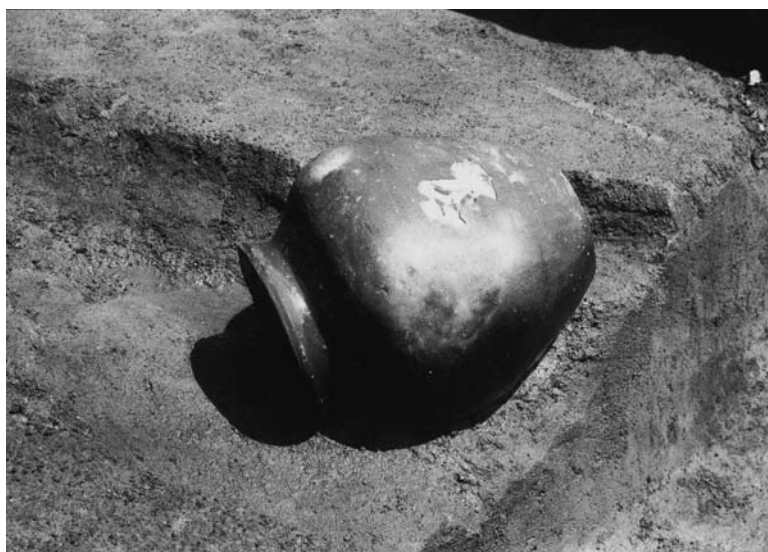




調査風景



4号土壇 甕 (No.19) 出土



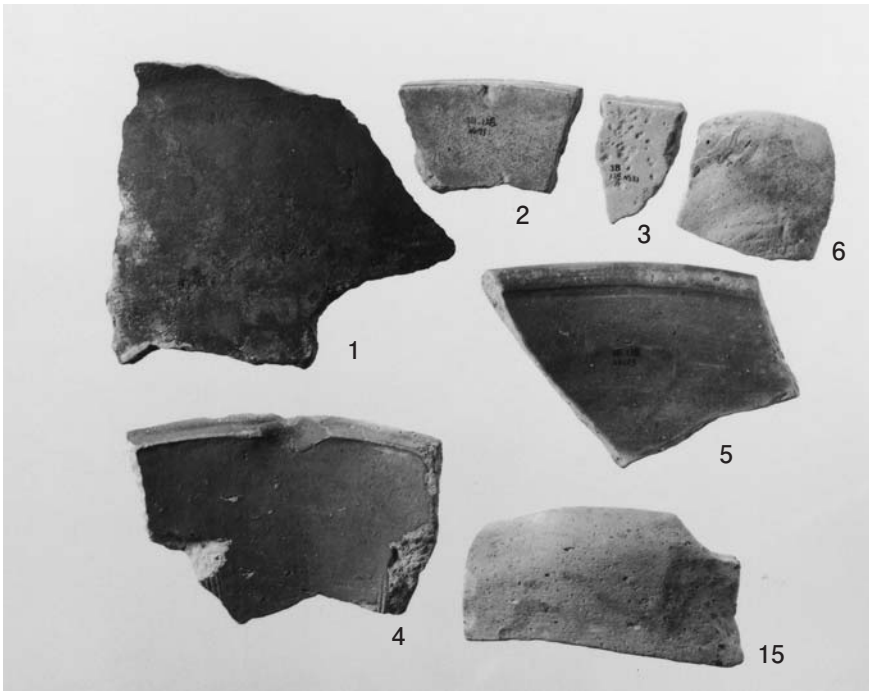
4号土壇 甕 (No.19) 出土 (西から)



1号土壙 完掘



1号井戸 完掘



在地土器



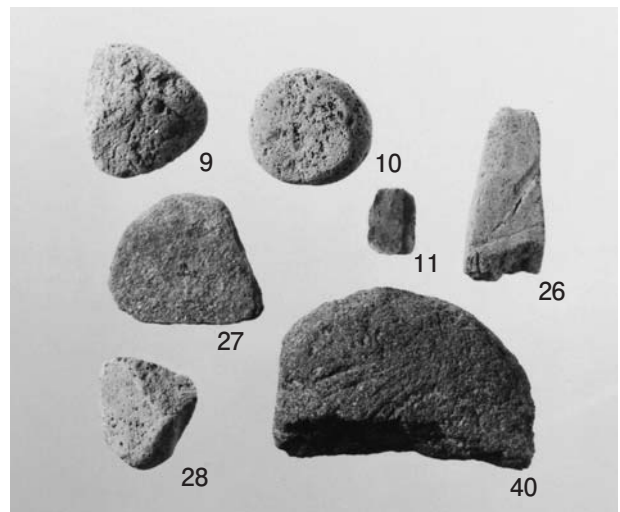
板碑



桶側板



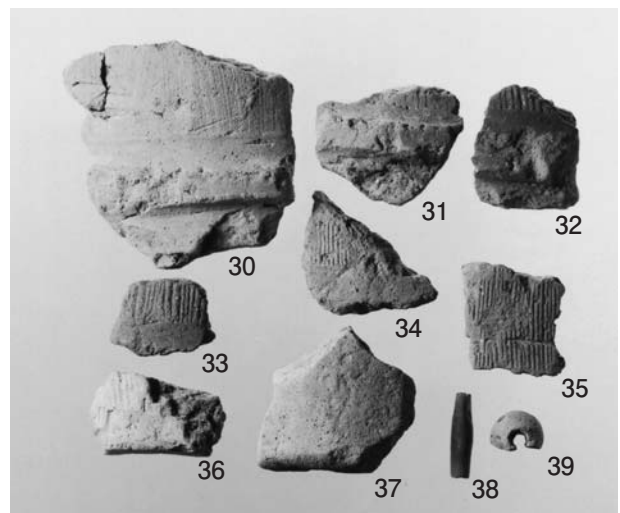
煙管



磨石・砥石



漆碗



埴輪他



調査前風景



調査風景



22号土壇 坏 (No.16) 出土



22号土壙 高坏 (No.19他) 出土



21号土壙 壺 (No.15) 出土



灰色粘土ブロック検出



灰色粘土ブロック ベルト残し



No.172 (No.42) 出土



完掘



完掘（北側）西から



完掘（南側）西から

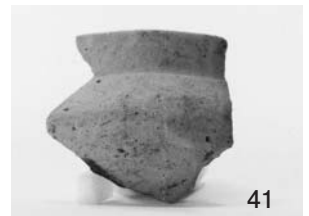


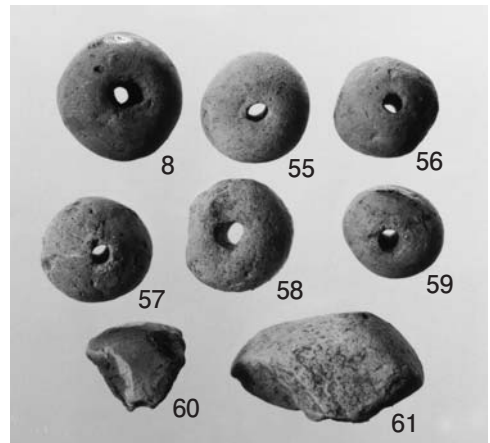
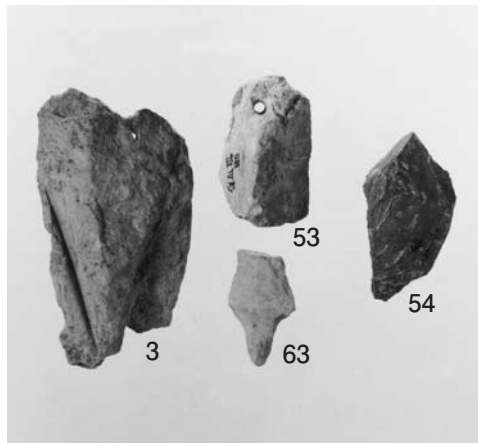
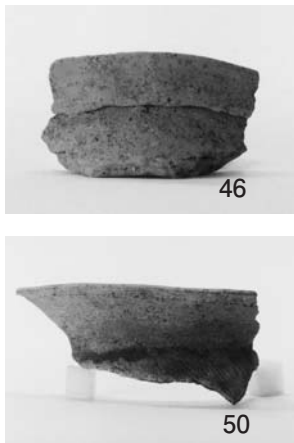


完掘（南側）東から



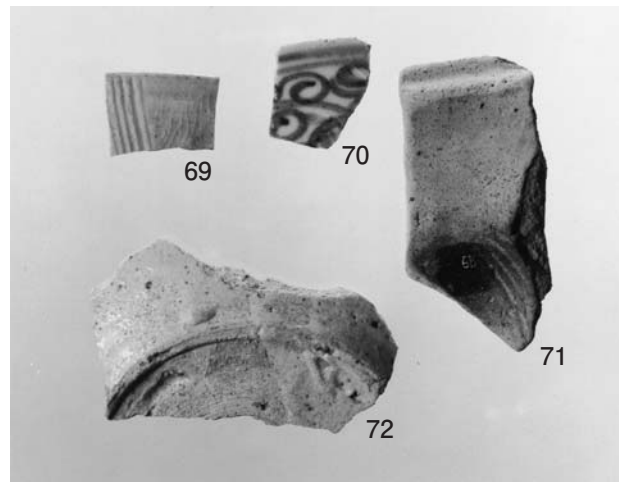
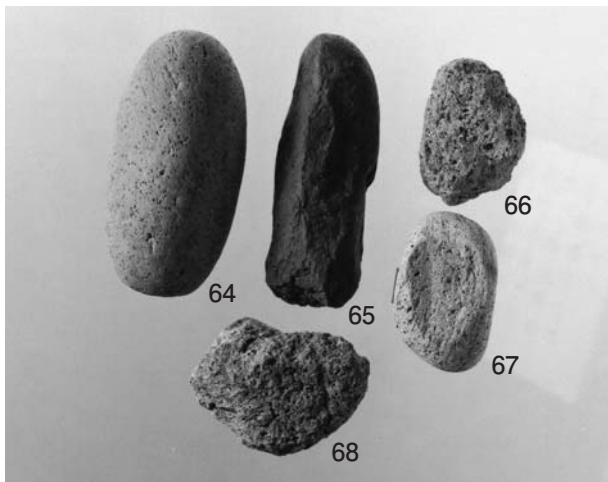
完掘（北側）東から





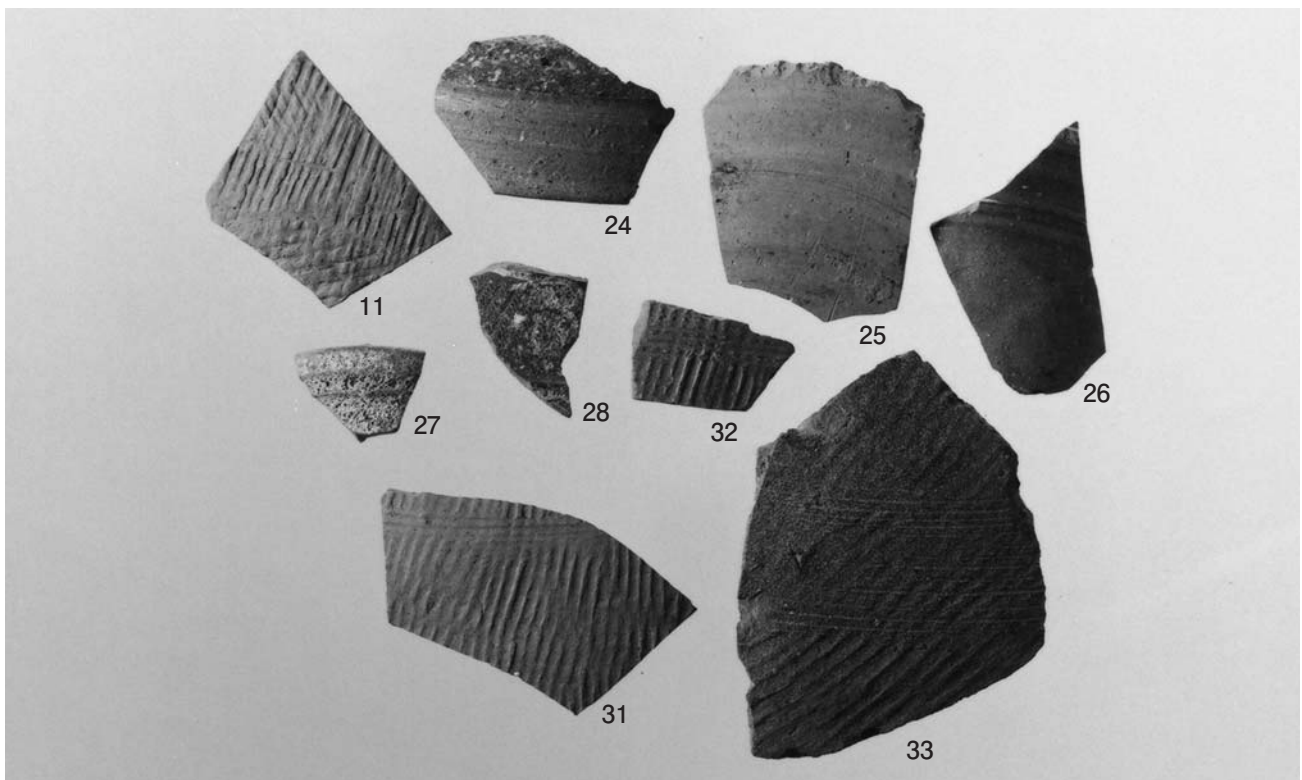
砥石 石鏃他

土玉・土鏢



叩石 磨石

陶磁器類



須恵器



調査前風景



砥石出土



標準土層 及び 井戸セクション



完掘（東から）



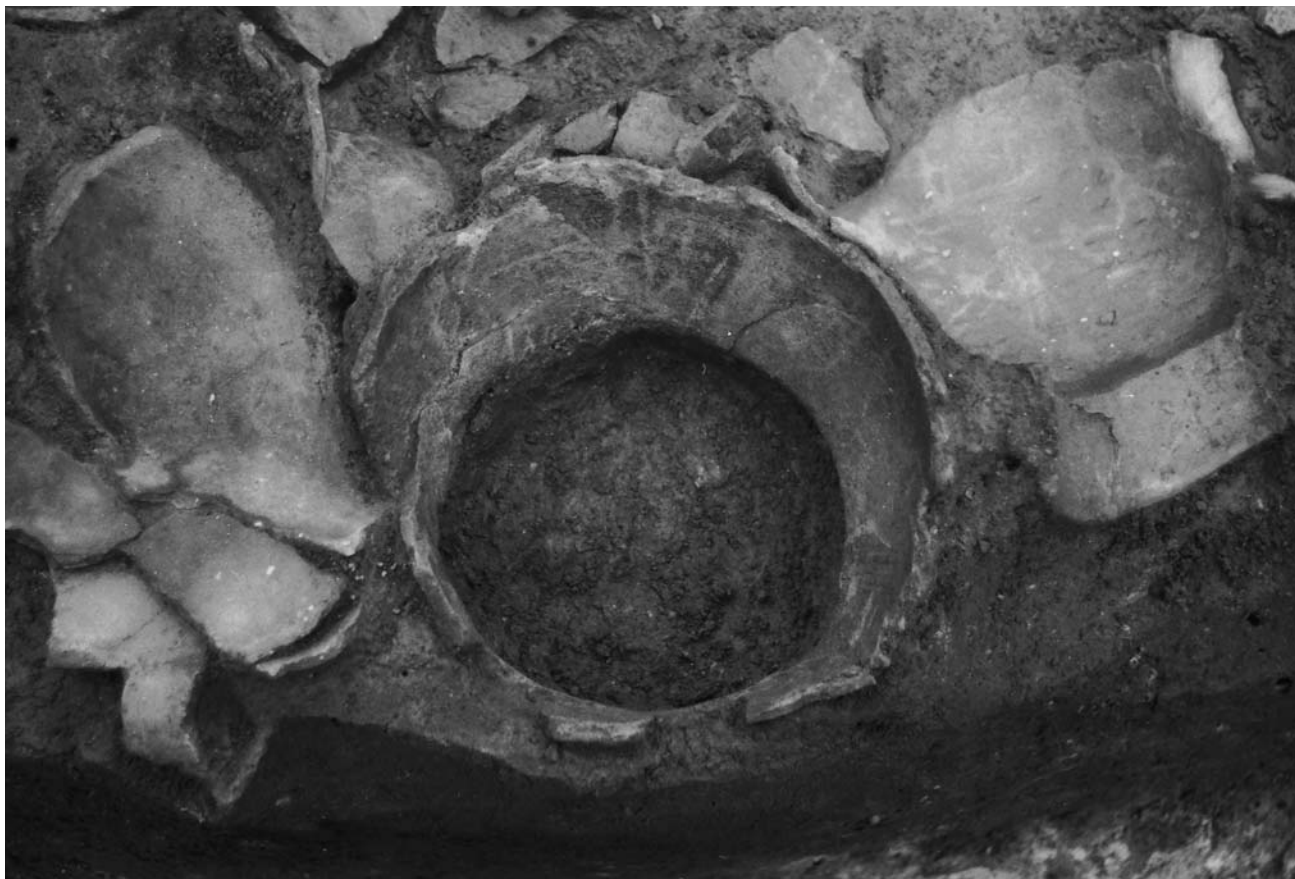
土師器集中



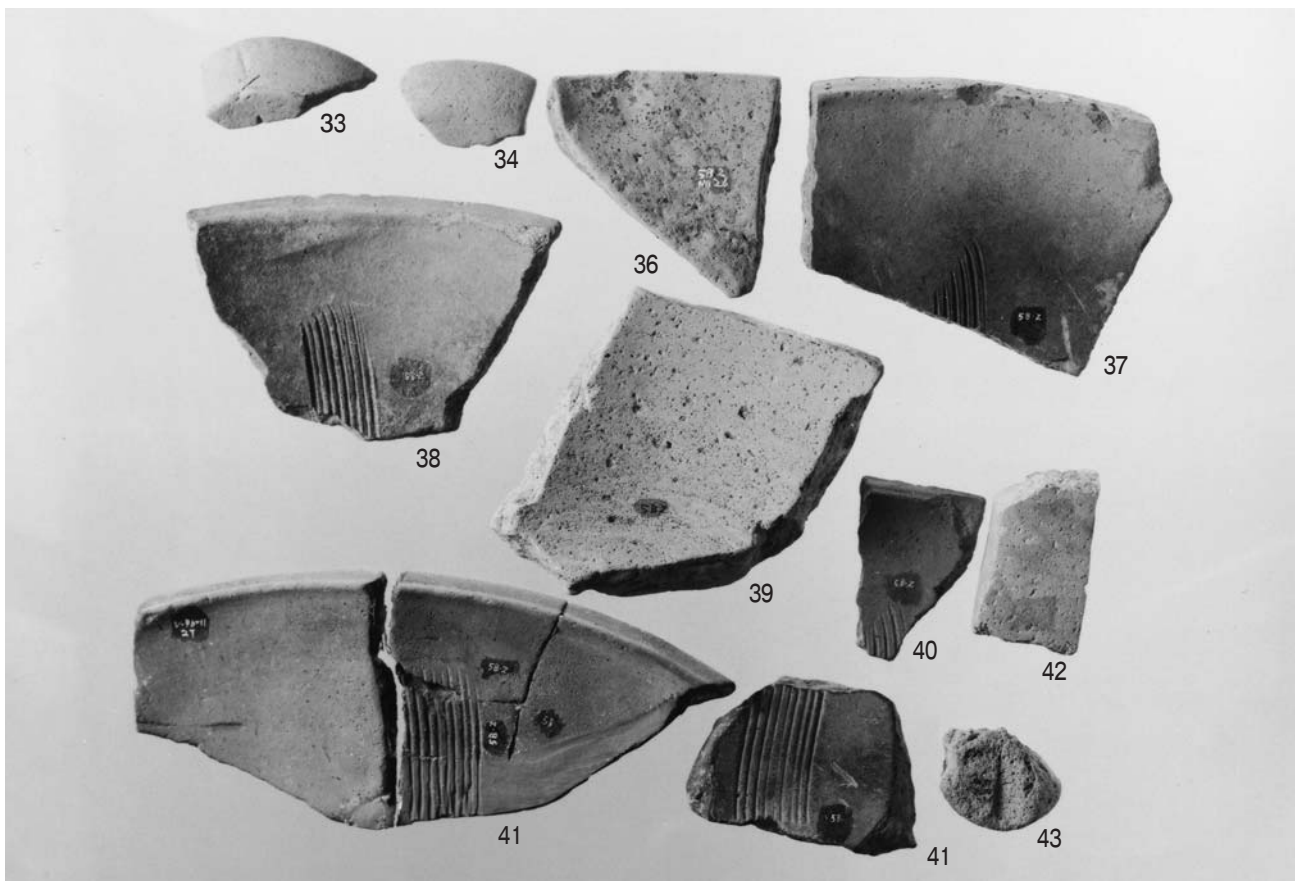
土師器集中 (No.7) 出土



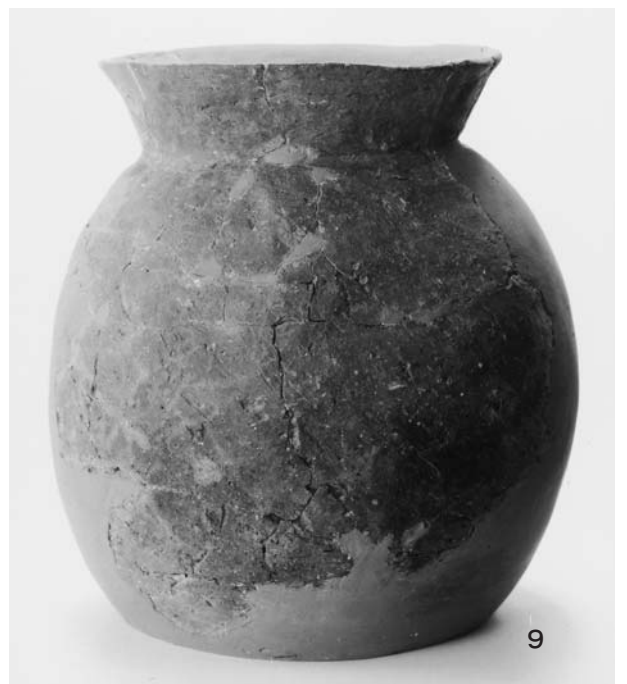
土師器集中 (No.8) 出土



土師器集中 (No. 5) 出土



在地土器他









調査前風景



調査風景



1号掘完掘 (北から)



遺物出土



磨製石鏃出土



須恵器 (No.5)



上層 遺物出土



土師器片集中



土師器出土 (No. 2)



4号溝完掘



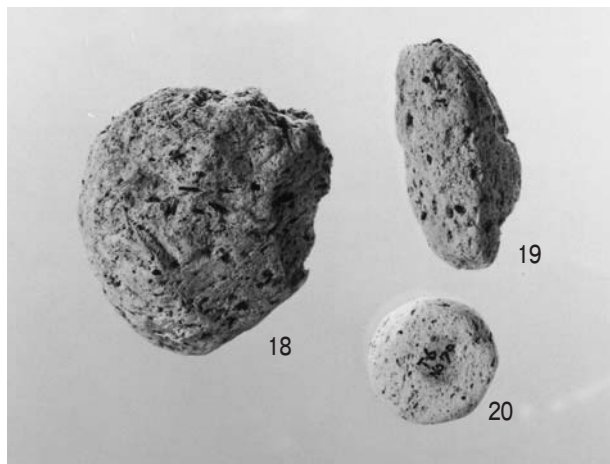
1号溝完掘



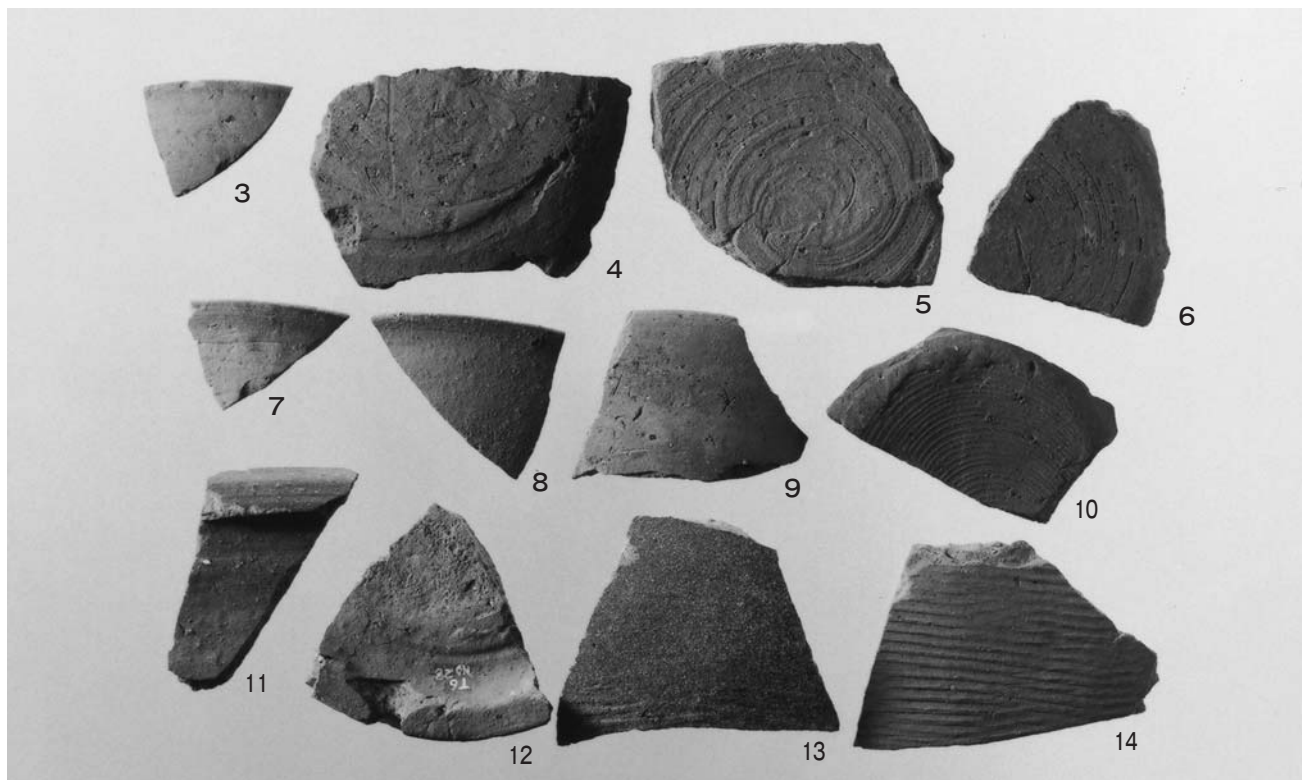
土師器出土



石鏃 土錘



磨石



須恵器

## 報告書抄録

フリガナ	サンバンイセキ	ゴバンイセキ	タナダレジョウト					
書名	三番遺跡第1次調査 五番遺跡第1・2次調査 種垂城跡第6次調査							
副書名								
巻次								
シリーズ名	騎西町埋蔵文化財調査会報告書							
シリーズ番号	第4集							
編著者名	嶋村英之 嶋村薫							
編集機関	騎西町教育委員会							
所在地	〒367-0139 埼玉県北埼玉郡騎西町大字騎西36-1 0480-73-1111							
発行年月日	西暦2010年2月15日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんばんいせき 三番遺跡	おおあざかみなだれあざさんばん 大字上種足字三番	11421	017	36°5'00"	139°33'29"	19890711～ 19890824	77	個人住宅 建設
ごばんいせき 五番遺跡	おおあざかみなだれあざごばん 大字上種足字五番 1次		018	36°4'44"	139°34'13"	19890918～ 19891116	68	個人住宅 建設
			018	36°4'44"	139°34'16"	19910212～ 19910314	59	個人住宅 建設
たなだれじょうあと 種垂城跡	おおあざかみなだれあざさんばん 大字上種足字三番		016	36°5'00"	139°32'49"	19871011～ 19871213	127	個人住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
さんばんいせき 三番遺跡	集落	古墳時代 中近世		方形周溝墓 堀・溝・井戸		埴輪 在地甕・陶磁器		在地甕の完品が出土して いる。
ごばんいせき 五番遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 中近世		土壌・粘土プロ ック		石鏃・敲石 土師器・須恵器・管玉 陶磁器		隣接地で絵画土器片を採 集した。 須恵器の一部は陶邑産か。
		弥生時代中期 古墳時代後期 中近世		土器集中		土器片 土師器 陶磁器		土師器11個体分が集中し 出土した。
たなだれじょうあと 種垂城跡	城跡	縄文時代 弥生時代 中期 古墳時代 奈良平安時代 中世以降		堀・溝		石鏃 磨製石鏃 土師器 須恵器 陶磁器		磨製石鏃が出土した。
要約	<p>三番遺跡では、県調査1次の方形周溝墓や古墳が当調査区周辺まで展開していたものと思われる。また、14～15世紀代は墓域が北に広がっていたようである。</p> <p>五番遺跡・種垂城跡では、主に古墳時代から奈良平安時代の遺物が確認されたが、特に五番遺跡の弥生土器片、種垂城跡の磨製石鏃は当町でも数少ない弥生時代の遺物であり、また絵画土器は関東地方でも希少例である。</p>							

騎西町埋蔵文化財調査報告書 第4集

三番遺跡第1次調査 五番遺跡第1・2次調査 種垂城跡第6次調査

平成22年2月10日印刷

平成22年2月15日発行

発行 騎西町教育委員会

〒347-0192

埼玉県北埼玉郡騎西町騎西36-1

電話 0480-73-1111

印刷 関東図書株式会社